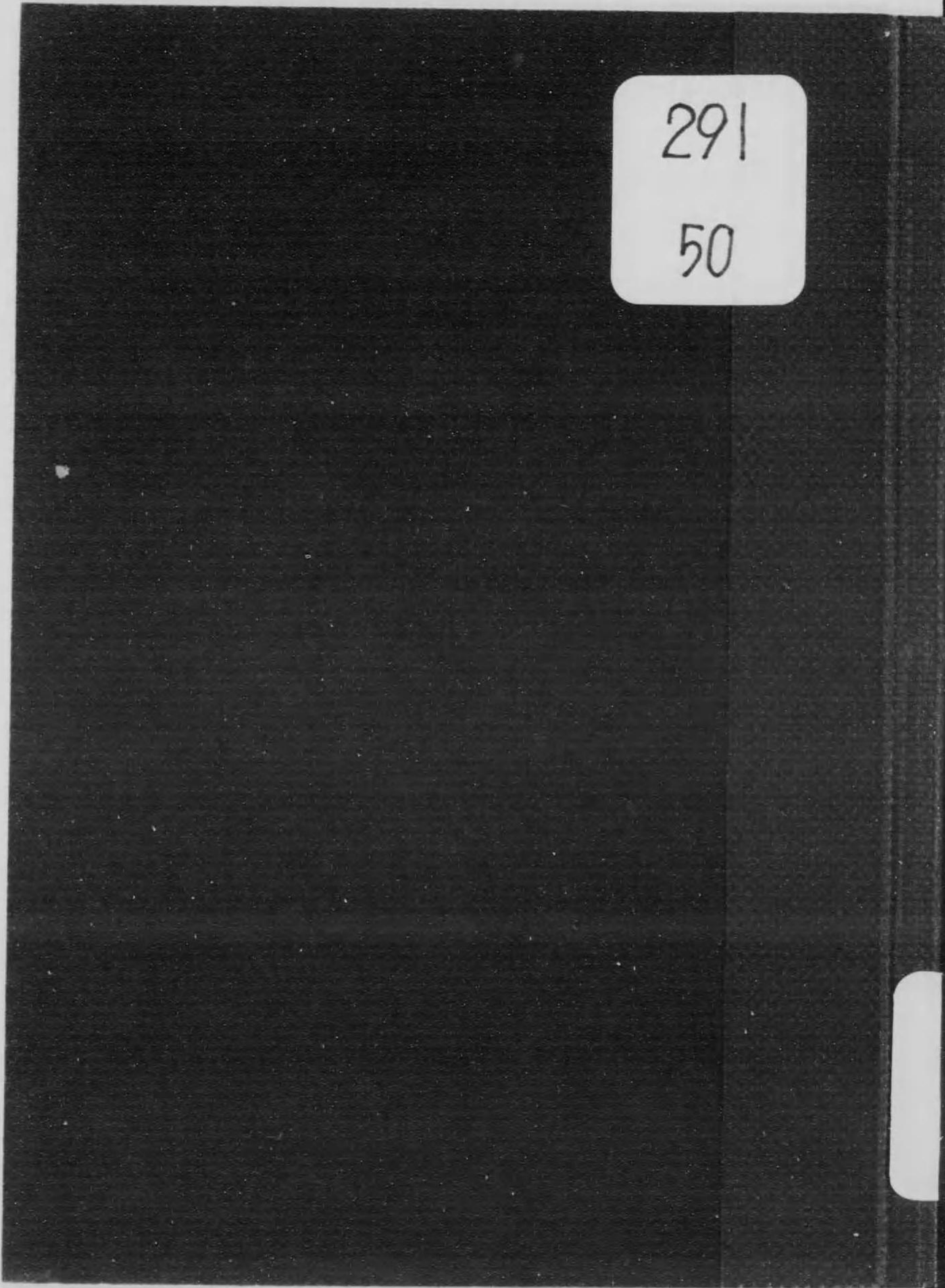


始



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5<sup>m</sup> 0 1 2 3 4 5

291  
50





斗5R12

農村補習教育之研究



291-50



農村補習教育之研究

大正

6. 1. 11

內交



## 序

余の四箇年有餘の郡役所生活は、余をして補習教育萬能論者たらしめた。農村の開発も、自治の振興も、乃至は國運の伸張も、一に繋りて補習教育の振否如何によること、信ずるに至つたのである。勿論一に繋りてと云ふことは、理論上言ひ過ぎではあるが斯様な語句を用ひねば満足し難いほど、余は補習教育の必要と其の効果の大なるを信ずる者である。この信念こそ大膽にも、教育専門家でもない余をして、本書を草せしめた所以である。

題して農村補習教育の研究と云ふも、固より片々たる小冊子に



過ぎぬから内外の著書學説を涉獵して、學者の一察を博しようとするのではなく、多くは余が地方にありて、教育當事者と共に施設し、研究した事項を記述したのである。随つて只實際家の參考として、農村補習教育の普及と改善とに幾分の貢獻をなすことが出来たならば、余の願は即ち足るのである。

本書の中、女子の補習教育に關して、少しも言及してないのはその必要を輕視した爲ではなく、一に余の經驗の乏しきによるのである。幸にこの點に就ては、實際家の示教を仰ぎたいと思ふ。

大正五年十二月

著者識

# 農村補習教育之研究

## 目次

第一 緒論	一
(一) 農村補習教育の意義	一
(二) 農村補習教育の必要	四
(三) 農村補習教育の現状	三
第二 農村補習教育の形式	一八
(一) 學校の設置區域	一八
(二) 修業年限	三
(三) 學級編成	元
(四) 授業季節、授業日數并に學年の始終	三
(五) 入學及出席の奨勵	四



(六) 商議員會……………四七

第三 農村補習教育の内容……………五一

(一) 普通教育の補習……………五一

(二) 實業教育……………三三

(三) 公民教育……………八七

(四) 研究科の施設……………一〇五

第四 農村補習教育の指導及獎勵……………一二六

(一) 教師の養成……………一二六

(二) 模範的補習學校の設立……………一三一

(三) 經費の補助……………一三三

農村補習教育之研究 目次 終

農村補習教育之研究

田澤義鋪著

第一 緒論

(一) 農村補習教育の意義

余が本篇に於て謂ふ所の農村補習教育とは、小學校を卒業して中等以上の學校に進むことなく、直に實業に従事しつゝある青年に對し、普通教育の補習をなし、更に進んで農業教育及公民教育を施すの教育である。この定義めいた説明は文部省令に謂ふ所の



實業補習學校の性質とも幾分異なる所あるを免れないが、余は斯の如く解釋するのが、最も農村補習教育の特徴を表すものと信ずるのである。従て其形式的意義は現に實業に従事しつゝある青年に對する教育と云ふ點に存し、夫の名稱は實業補習學校と云ふも、普通の諸種の學校と等しく、晝間に於て教授をする學校は、余の茲に云ふ補習教育でない。余は斯の如き學校は補習學校にあらずして、乙種程度の實業學校と解する方、其眞に當つてゐると思ふ。従つて余の云ふ補習學校は多く夜學制度である。晝間労働して實業に従事しつゝある者に對し、原則として夜間に於て教授する學校である。(稀には朝學と云ふものあれど之は性質上夜學と同一で

ある)。農村補習教育の形式的意義は上述の如くであるとして、その實質的意義は如何と云ふに、普通教育の補習、實業教育、公民教育、この三者を完全に包含する教育であると云ふ點に存するのである。この點に就て、余の意見は世間の多數の人の考と異なる所あるかも知れない。小學校教師の中には、補習教育を以て單に普通教育の補習であると思惟する人が少くない。又、農業に關する學者は多く補習教育を以て職業教育と解するを常とする。併し是等は何れも一方に偏せるもので、國運の要求する補習教育の眞意義は、前に述べた三者を盡く包含しなければならぬのである。實に普通教育、實業教育、公民教育の三者は、補習教育の要素とし



て缺く可からざるもので、其の一を缺けば、完全なる補習教育（少くとも農村に於ては）と稱することは出来ないものである。この意義よりすれば、實業補習學校と云ふよりも、寧ろ實科公民學校と云ふを當れりとすべきであらうが、斯の如きは名稱の末、要するに時勢の要求する眞意義を了解すれば足りるのである。

(二) 農村補習教育の必要

農村補習教育の必要は、幾多の點より立論する事が出来るが、今其の主要なる諸點に就て簡単に記述して見よう。尤も其の多くは農村に限らず、一般的補習教育の必要なる理由である。

一、小學教育の完成 我邦の義務教育は、先年延長して六年と

なつたが、それでもまだ決して完全と云ふ譯には行かない。現に徴兵検査の際に於ける學力試験の成績によれば、義務教育を終了しながら、其後何等の教育を受けない者の中には、殆んど自己の姓名を記す丈の者が少くない。こんな風では多額の經費を投じた小學教育の効果も、卒業後七八年にして消え失せることとなるので、之は何うしても補習學校に於て、普通教育の補習を行うて小學教育の完成を謀るの必要がある。

二、普遍的實業教育の必要 近時農村の疲弊を説く人が非常に

多いやうであるが、之には各種の原因ありとするも、結局農民の無智と無氣力とに歸するの外はないであらう。現在に於ても農業



教育は相當に普及してゐるが、一家の運命を眞に一挺の鋤先に託してゐる小農に對する教育設備は一向に整つてゐない。之れ實に農村疲弊の大原因をなすものである。従つて今後は補習教育に依つて、普遍的農業教育を施し、小農の無智と無氣力とを救濟しなければならぬ。之即ち補習教育の必要なる所以の一つである。

三、公民教育の必要 我邦の國體は云ふ迄もなく、萬邦無比の尊嚴なる國體であるが、國民一人残らず、眞にその尊嚴の眞義を自覺してゐるであらうか、外來の思想に影響されて、國體觀念の動搖しつゝあるものは絶對にないであらうか。又憲法制定後約三十年にならんとしてゐるが、其の運用は果して完全に行はれてゐ

るか、選舉は何等の弊害なくよく其の神聖を保つてゐるであらうか、自治體の運用は果して自治制の期待に副うてゐるであらうか、是等各種問題に對する答案は、遺憾ながら何れも公民教育の必要を裏書してゐるのである。而して國民の全部に對する公民教育は實に補習教育によるの外はないのである。

四、危険年齢の教養 人類の成育状態を研究せる學者は、齒の抜けかほる七八歳の時と、情慾發生後の數年を以て、人生の危険年齢と唱へてゐる。學者の研究を別にして常識的に考ふるも、一生の事略十七八歳より二十歳迄の間に定まると云つて差支ないであらう。この人生の危機たる十八九歳の青年の多くを、何等教育



する設備もなく放任して置くのは、國家にとりても、青年自身にとりても、非常なる不幸である。この時期に於て充分なる教育を施して、一生涯に於ける生活の基礎を確立せしむる必要がある。而して大多數の青年に就て云へば、補習教育こそこの必要を充すを得べき唯一の教育機關である。

五、國際競争の準備 補習教育の必要は、之を國際的に觀察する場合に於て、特に敵國獨逸の夫れと比較する時に於て、最も痛切に感ずるのである。ミュンヘンの市役所に立て籠つて、ケルシエンシュタイナーが主張する補習教育の大氣焔は、實に全世界の教育界を風靡してゐる如く、夫れ丈獨逸の補習教育は盛大を極めてゐる。

る。義務教育が已に八箇年である上に、獨逸聯邦の多くの地方では更に三年の補習教育を義務として課してゐる。多くの都市では普通の補習學校と職業補習學校との二種類あつて修業年限は何れも三年であるが、近時普通の補習學校を卒業してから、職業補習學校に入學するもの漸次多きを加へると云ふ話である。是等は六箇年の補習教育、即ち小學校より通じて云へば、丁年迄教育を受けつゝあるのである。又農村の補習學校は三箇年であるが、其外に冬季農學校と云ふものがあつてよく成績が擧つてゐる。今次の大戦亂に獨逸が列強を敵として敢へて容易に敗れず、海陸の封鎖裡に今尙國力を維持し能ふのは、その一半の功を補習教育に歸し



ても差支ないであらう。學者や批評家の云ふが如く、近世國家の闘争は單純なる民力の戦にあらすして、國力全部の争である。而してこの言は戦時と平時とを問はず、常に國際競争の眞義を道破してゐる。補習教育の如き國力の涵養と最も關係深き施設が、國際競争の準備として必要なること、又多言を要せないのである。

六、青年團の補習教育との關係 補習教育の必要なることは、以上數項に分ちて説明せる通りであるが、世人の一部に、補習教育と青年團との關係に就いて容易ならぬ誤解が存するのである。其の誤解の一つは、補習教育は青年團の事業であるから、夜間寺にでも集まつて読み書きの練習をやればそれでいゝ。青年團の

外に町村立の補習學校を設くるが如きは、青年團の中心的事業を奪ふのである。と云ふ考へである。一體今日の補習學校は多く青年團の所謂夜學より發達し來たつたもので、沿革より云へば確に補習教育は青年團の事業であつたのである。併し今日の如く發達したる補習教育となれば、補習教育夫自身が青年團の事業ではなく、補習教育の後援こそ青年團の最も重要な事業であらねばならぬ。前にも云つた通り、國家と社會の要求する將來の補習教育は普通教育の補習以外、完全なる實業教育と公民教育とを兼ね備へなければならぬ。之が爲には良教師も得なければならぬし、設備も完全にしなければならぬ。其の結果自ら經費の増大を來す



のであつて、之れは何うしても町村の經營にたよるの外はない。青年團としては、入學、出席の獎勵其他の後援を以て自己の事業としなければならぬ。今一つの之に關する誤解は補習教育と青年團とは目的全然同一であるから、二兎を逐へば一兎を得ず、補習教育のみに熱中して青年團を無視するに如かずと云ふ考である。なるほど補習教育と青年團とは其目的の大部分を等しくするかも知れないが、全然同一であると云ふのは早計である。況んや其目的を達せんとする手段方法に於て、大に異なるのであるから、此兩者は決して矛盾も衝突もしないのみならず、相倚り相助けて初めて双方共完全な成績を擧ぐる事が出来るのである。以上述べ來れ

る如く、補習教育の必要は青年團の發達に従つて減するものにあらず、青年團と兩立して益々其必要の切實を感ずるものである。

(三) 農村補習教育の現状

補習教育の必要なること、略前述せる通りであるが、今其現在の状況を文部省の統計に求むるに、我々の理想を實現するにはまだ前途中々に遼遠である。即ち學校數を見れば、(大正三年度の事實による。以下同じ)

工業補習學校	一七〇
農業補習學校	六、一〇〇
水産補習學校	一二〇



商業補習學校 二一三  
 商船補習學校 五  
 其他の補習學校 一、七二六  
 合計 八、三四三

にして、相當の多數に上つてゐるやうであるが、之を小學校數の二一、〇三四に比すれば、まだ半分も普及してゐないのである。又入學者の狀況を調べて見ると、

尋常小學校卒業 (男) 五〇六、八二三人  
 高等小學校卒業 (男) 一七四、三四一人  
 合計 六八一、一六四

の小學校卒業者に對し、中等程度の諸學校の入學者(師範、中學、工業、甲乙種農業、甲乙種商業、水産、甲種商船、徒弟學校の外各種學校は中學及實業學校に類するものを算入す)は九三、四八九人にして、前記の小學校卒業者の總數より減すれば、差引五八七、六七五人となる。而してこの五十八萬七千餘人中、補習學校に入學者るものは僅に一九八、二七六人にして、殘餘の三八九、三九九人は何等教育を受くることなくして直に實業に従事し居る者である。又補習學校の入學者は一九八、二七六人なるに、補習學校の全生徒は三六六、八六四人にして入學者の二倍に達せず。之を以て見るも其の修業年限の短くして而かも半途退學者の多きこと



を知ることが出来る。又府縣郡市町村の公學費の調査を見るに、その小學校の爲に費さるゝもの五四、九一〇、四二九圓に對し、補習學校の爲に費さるゝは僅に七三八、八二六圓にして約七十五分の一に當る。補習教育の意義と効果とを以てして、社會に認めらるゝこと僅に斯の如しとすれば、誠に情ない次第である。余は小學校に投ずる公學費の十分の一位を補習學校に投じても決して不當でないと思ふのである。

翻つて統計の數字を離れて各地の實情を洞察すれば、其の不振恐くは統計の表す所に倍するの感あるであらう。都市の商工補習教育が、近時東京大阪神戸等に於て優秀なる成績を擧げつゝある

に比して、特に農村の補習教育は沈滞してゐるやうに思はれる。之迄やつては來たが何うも行き詰まつたと云ふ感じが無いでもない。無論中には優良の成績を擧げてゐる補習學校も相當にあるやうであるが、全體を通じて大觀すれば、何うも不振の状態にあると云はれても仕方はあるまいと思ふ。そこで我々は、補習教育の實際家と相共に研究して、其の改善の方策を講せなければならぬ。以下述ぶる所のものは、余が地方の經驗より得たる私案であるが、幾分なりとも實際家の參考となることあらば、まことに望外の幸である。



## 第二 農村補習教育の形式

### (一) 學校の設置區域

農村に於ける補習學校の設置區域は、町村の區域によるものと小學校の區域によるものと、部落本位の區域によるものとに分つことが出来る。一町村一小學校で、町村の區域と小學校の區域とが一致する場合は、その區域によつて小學校に附設するの最も好都合なことは多言を要すまい。只一町村に數個の小學校ある場合に於て、公民教育の立場のみより見れば、尙一町村一補習學校として自治協同の訓練に資したいと云ふ感じもするが、斯

の如き場合は、多くは大町村で通學距離の遠い場合であるし、且つそれだけでなくも専門の補習學校長を得ることの困難な今日の實況に照して、小學校の區域によるものが最も適當であらう。無論この場合に於ては、同一町村内の各補習學校の聯絡統一は極めて必要なことであつて、殊にその公民教育の方針はよく統一されてゐなければならぬ。或は各校の當事者を集めて補習教育研究會の如きものを組織するか、又は後に述べる所の商議員を各學校に置かずに、共通してその町村に設ける等の方法を講じて、聯絡統一の機關としなければなるまいと思ふ。次に部落本位の小區域による方法は現在可なり廣く行はれてゐるが、之は多くの場合に於て



不適當と云はざるを得ない。部落本位の補習學校の長所は生徒の通學に便利なると、生徒數少きを以て個性に應じた教育を施すの餘地大なるとにあるが、一面に教師の不足、設備の不完全等の爲に價値あり且つ徹底せる補習教育を授くることの出来ない大缺點あるを免れない。一小學校の区域内に部落本位の數個の補習學校を設くる場合に於ては、小學校の教師は夫れ々々分擔して各補習學校の教授に當らなければならぬので、多くの教師は毎晩教授を餘儀なくさるゝに至り、爲に負擔の過重を來し、その結果は小學校と補習學校と共に成績不良とならざるを得ないのである。又現在の實況よりすれば一小學校の教員の中にも眞の優秀なる熱心な

人はさう澤山あるものではない。従つて部落本位の小區域の長所としてさきに掲げた個性に應ずる教育を施すことも、部落の受持教師によつては十分發揮することが出来ない場合が少くない。又部落本位の小區域に於ては農業科、公民科に至つてはその教師を求むること到底不可能であると云つても過言であるまい。補習教育を以て寺小屋式の讀み書き復習所と解しては、到底我々の期待を満足せしむることは出来ない。前にも云つた通り普通教育の補習以外、完全に實業教育、公民教育を施すことは、教師、設備及經費等の點に於て部落本位の補習學校の到底堪へ能はざる所である。現在の實況に於ては教員住宅、寺院等を利用して部落本位の



區域によるものが可なり多いやうであるが、之はなるべく一小學校一校に改めて完全なる教育を施すやうにして貰ひたいものである。或は遠距離通學は寄り道をしたりなどして訓育上害があるといふ人もあるが、之は青年團の活動に訴へて防止すれば譯はないことである。又二十町や三十町は駆け足で飛んで來れば運動にもなり、寒い時は暖くもなつて却つて結構である。但し山間の交通不便の地や、民度の低い漁村などで、到底完全なる補習教育を施しがたい處では、部落本位の補習學校も無きに優ること勿論である。又篤志家の設立せる私立の補習學校等で、相當に經費も豊であり、良教師も得られる處では、却つて小區域で獨特の成績を

擧げてゐる處がある。是等は強て大區域とする必要のないこと勿論であるが、此の場合に於ては補習學校と町村及小學校との關係を密接ならしめる爲に、十分なる考慮を要するのである。

(二) 修業年限

農村補習學校の修業年限は、現在の狀況よりすれば二年若しくは三年となつてゐるのが最も多いやうである。文部省で先年發表された調査報告書にも二年若しくは三年を適當とするとあつたが、余は何うしても丁年主義即ち八年の修業年限とするの必要あることを確信してゐる。二年若しくは三年を適當とすると云ふのは獨逸の補習教育を參考にして、我邦の進歩の程度を考へての説であらう



なる程獨逸の補習學校の修業年限は普通三年となつてゐるが、義務教育が八年であつて已に我國に比して二年多いのみならず、補習學校には普通補習學校と職業補習學校の二種あり、普通補習學校を卒業して後職業補習學校に入學するもの漸次多きを加ふると云ふありさまであるから、是等を通算すれば恰も丁年に達するのである。外國の狀況斯くの如くであるのみならず、余は前にも述べた如く補習教育を以て單純なる小學教育の補習なりと解せず、實業教育及公民教育を當然包含すべきものと信じてゐるが、斯の如き實業教育公民教育を施すには僅に二年三年の修業年限では如何ともすることが出来ないのである。況んや補習學校はその

性質上一年間の授業時數最も少く普通二百五六十時間、多くとも三百時間を超えるは殆んど不可能なるに於てをや。又論者は生徒の年齢の不同、出席の常ならぬこと等よりして、短期間たるべきを主張するやにも思へるが、之は後に就學出席の處で述ぶるやうに決して心配はないのである。又生徒の年齢よりして云ふも、人生の危機とも云ふべき十八九歳の時を教育の埒外に放任することは、本人にとりても國家にとりても非常なる損失と云はざるを得ない。この時代に充分に教育して一生の基礎を確立してやらねばならぬ。斯の如く種々の點よりして我々は農村に於ける補習學校の修業年限は丁年主義即ち八箇年としなければならぬと主張する



のである。

次にこの八箇年の期間は之を本科と研究科とに分つことにした。補習教育は最も實際的教育でなければならぬから、教へると云ふよりも寧ろ生徒をして自發的に研究せしむることが最後の目的でなければならぬ。従て本科に於て十分に素養を與へたる後、研究科に於て應用的研究を爲さしめて補習教育の仕上げをする必要がある。而して我々の經驗から云へば、本科六箇年研究科二箇年とするのが最も適當であると思ふ。無論研究科は生徒の希望によりては二箇年を超過するも差支ないのみならず、寧ろ大に歡迎すべきである。研究科の詳細のやり方は後に説明することとする

尙修業年限の問題に附加して云つて置きたいことは、高等小學卒業生の處置である。自分の考では高等小學を卒業しても矢張り補習學校に入學すべきもので、高等小學二年終了の生徒は補習學校の三年終了と見て四年に入學せしむる位が適當であらうと思ふ併し之は高等小學と補習學校との實力比較の問題であるから、補習教育のやり方如何によつて一律に斷定することは不可能である地方の實況に應じ實力相當の學級に編入することにしなければならぬと思ふ。只注意して置きたいのは補習教育に經驗の少ない人は、單に補習學校と高等小學との教授時數を比較して高等小學の一年は補習學校の三年若くは四年に相當すと思惟するかも知れぬ



併し相當に考慮された方法によれる補習教育の價値は決して斯の如く低級なものでない。理科的知識に於ては高等小學に可なり劣るが、國語算術等はさしたる相違はないのである。教授時數に於ては殆んど一對三乃至四と云ふやうな大差あるに拘らず、其の成績は左程に隔絶してゐない。斯の如き原因が果して那の邊にあるか、或は高等小學の教授に缺陷があるか、補習學校の生徒は意氣込が違ふのか、是等は更に研究を要する問題であるが、兎に角兩者の教育の效果は必しも教授時數に正比例するものにあらずと云ふこと丈は、經驗家の略々一致する所のやうである。加ふるに農業科等に於ては補習教育の方却て進歩すべき理由あるを以て、

我々は高等小學二箇年と補習教育三箇年と略相當すると思惟して四年編入説を唱ふるのであるが、是等は尙實際家に於て大に研究を積まれんこと切望する。要するに高等小學の卒業生は補習教育を受くる必要なやに考へてゐる人も少くないが、この考は何うしても打破しなければならぬ。高等小學の卒業生と雖公民教育、農業教育の必要あることは云ふを待たないからである。

(三) 學級編制

學級の編制に就ては學科主義によるべしとするものと、學年主義を可とするものと大に争ふてゐるやうに見えるが、之は等しく補習教育と云ふも、其實際のやり方如何によつて結論を異にすべ



き問題であらう。都市の商工補習學校の如く、生徒の希望する職業科目が専門的で而かも種類多く、且つ生徒の境遇、上長期の通學困難なるものにあつては、普通教育及公民教育に比して職業科目を重んずべく、從て科目主義によつて學級を編制するのが適當であらうが、今迄述べ來つた如く、修業年限長期に涉り、普通教育及公民教育が實業教育と相并んで其要素たるべき農村の補習教育に於ては、大體に於て學年主義を可なりと信するのである。或は年齢の不同、出席の常ならざること等の爲に學年主義を非難する人もあるやうであるが、之は後に述べるやうに、就學出席の獎勵の爲に適切なる方法を講ずれば、決して憂ふるに足らないので

ある。設立當時の二三年こそ年齢の不同學力の不同等の爲に困ることがあるが、五年六年と經ては略平均するに至るものである。斯の如く我々は、大體に於て學年主義を可なりとするも、教師の數、教室の設備、生徒の數等の關係上、之に幾分の變形を加ふるの必要あることを認むるものである。即ち實際上のやり方としては、生徒數によりてはある學年とある學年との合級を作り、普通科目に屬するものは複式にて學年的に教授をなし、農業科公民科等の複式教授困難なるものは、循環教授によりて同一進度の教授を授け、二箇年にして反復修了するといふやうなやり方が最も便宜であらう。例へば二個學年の合級の農業科に於て、初年に



米麥作を教へ次の年に土壤及肥料を教へ斯の如く循環して行けば、生徒は初めに米麥作を教はるものと、初めに肥料及土壤を教はるものと出来るが、兎に角二箇年にしてこの二種類を終了することが出来るのである。要するに學級編制の方法は教育學上の議論としては中々決しがたい問題であらうが、實際問題としての解決は左迄困難ではないやうである。

(四) 授業季節、授業時數並に學年の始終

授業の季節、時間并に學年の終始に關する事項には種々の問題を包含するから項目を分つて説明しよう。

一、授業の季節 夜學制度の補習學校に於ては、多く九月より

三月迄の授業季節になつてゐる。稀には一年を通じて授業してゐる所もあるが、矢張普通としては九月より三月迄とし、十月十一月の間の收穫時期に於て三週間位は休む必要がある。この點は實際行はれてゐるのと異つた意見もないが、四月に於て幾分の授業をなすの必要の有無に就ては、實際家の研究を煩したいと思ふ。これは後に述べる學年終始の問題を參照して貰ひたい。

二、授業時數 授業の季節は前述の如しとして、其の季節中は日曜を除いて毎晩授業するのを原則としたい。但し山間地方の單級や二三學級の小學校で教員數の少い處に附設してある補習學校に於ては、一週間三夜若は四夜の授業に減少する必要がある。こ



の事は教師の勞力問題に關聯するから、後に詳しく述ぶことにしよう。又一夜に於ける教授時數は各地とも普通二時間となつてゐるやうであるが、之はそれで結構であらう。

三、學年の始終 授業季節が九月より三月迄となつてゐる學校が多いと前に述べたが、是等の學校に於て學年も矢張り九月に始まり三月に終ると考へてゐる所が少くない。併し之は斷じてよくないと思ふ。補習教育は單なる學科の授業のみで能事了れりとするものでない。最も平素の訓育を重んぜなければならぬ。然るに四月より八月に至る五箇月の長期間を、學年以外に放任して何等教育方法を講じないのは、斷じて其の不可なるを信するのである。

斯の如き誤れる考を有する學校に於ては、八月の暑中休暇を終りて漸く補習教育の季節の近けるを感じ、九月に入りて漸く諸般の打合せや計畫を始むるを常とするを以て、九月も半過でなければ學校が開かれぬことが決して少くない。そして當分の間は教師も生徒も本氣になれず、教授に對する準備も十分でなく、生徒の缺席も多い。十月の末頃になつてやつと本氣にならうと云ふ時は收穫期の休みが来る。こんな風で秋の授業が十分の効果を收むることが出来ない事例は遺憾ながら少くない。是等は無論その學校當事者の不注意の結果であるが、自ら九月を以て學年の始とする考に影響されて、この不注意を來すものも決して少くないと思



ふ。今一つ學年の始を九月とするが爲に起る弊害は、小學校卒業生を直に四月に於て補習學校に引き繼ぐことが出来ぬことである。我は補習學校の生徒なりと思ふのと、我は漸く小學校を卒業したりと思惟するのは、心の持方に於て非常の差あるを免れない。又形式的なことではあるが、小學校のとき折角實行した貯金なども、直に補習學校の生徒として引續き實行すれば左程困難でないが、一度學校の手を離るれば多くは無意義に費消さるゝやうである。斯の如き多くの缺點を除く爲に我々は四月に學年を開始することを主張するのである。そして授業季節の處で少しく述べたやうに、四月に於て少くとも十數日の授業を行ひ、初年級に對して

は主として補習教育の何たるやを説明し、又青年團の精神を講じて、補習學校の生徒及青年團員たるの自覺を與へ、一般に對しては普通の授業の外主として夏期に於ける農業實習の準備をなさしむる必要があらうと考へる。

四、晝間召集 學年の始を四月となし、四月に於て十數日の授業を行ひて生徒の自覺を促すとしても、五月より九月に至る間之を放任するは矢張不可である。暑中休暇中に小學生徒を時々召集する如く、補習學校に於ても、月二回位の晝間召集を行ふの必要がある。而してこの晝間召集の目的は生徒の訓育と農事實習の二つである。農業實習地の手入に晝間召集を要するは勿論、農業



科教師は時々生徒を引率して、村内田圃の實地に臨んで講話するの必要もあるであらう。是等の目的の爲に行ふ晝間召集はなるべく労働の時間を妨げないやうに早朝に於て行ふを妙とする。訓育の爲にする晝間召集を早朝に行ふて聯合體操をなし、或は駈足にて村内を一巡すると云ふやうな鍛鍊的訓練を施すことは極めて結構なことである。晝間召集の必要は今述べた通りであるから、必しも四月より八月に至る期間に限る譯でないのは勿論である。九月より三月に至る授業季節中に於ても、月一回か二回は是非やらなければならぬと思ふ。

五、季節的晝間教授 夜學組織の補習學校は、前にも云つた通

り授業日数の少いのが一の缺點であるが、之を補ふ爲に我々は季節的晝間教授を主張する。即ち一月の末頃から三月にかけての最農閑の時期を選んで、二週間乃至一箇月位の晝間教授を行ふのである。この晝間教授の時間は小學校と略等しく、五時間位を適當とするが、科目は普通科目を之に課せず、公民科に一日一時間位を費し、あとの四時間は皆實業科目に當てたいものである。この晝間教授に於て、夜間の如く學級を分ちて教ふるとすれば教師の不足を告ぐるに至るから、全部を四年以上の高學年、三年以下の低學年の二部に分ち、一部を二週間済ましてから二部を二週間開くと云ふことにすれば教師の融通もつき易いことと思ふ。



そして高學年の部には農業科と公民科、低學年の部には農業科と普通科と云ふ風に組み合せたら結構であらう。又この場合の農業科と云ふのは夜學の教授の續をやると云ふのではなくて、科目制度とし養蠶とか、製茶とか、果樹とか云ふ様に、一の獨立した部門を教ふことが必要である。さうでなければ前に云つた様に學年を合併することが出來ず、從て教師の不足を感ずることゝなるのである。附加へて一言して置くが、この晝間教授の制度は後に述ぶる處の農業科専門の教師あることを前提としてゐるもので、小學校の先生が兼任で農業科を教へてゐる補習學校にては到底實行の出來ないことである。尤この場合に限つて農會等より講師を

聘することゝすればそれでもよからう。

(五) 入學及出席の獎勵

農村補習學校を以て一の秀才教育の機關と見るならば、入學獎勵などはあまりやかましく云ふに及ばない。否、寧ろ生徒數を少くして教育の周到を期すべきであらうが、我々は飽く迄補習教育は普遍教育の一と見て、極力入學を獎勵して義務教育の實質を備へしむることに努めねばならぬ。無論我等と雖、生徒の智徳の啓發に全力を注ぐべき教師が、就學出席の督勵にその時間と勞力との過半を消費するの愚に左袒するものではないが、補習學校の場合に於ては、教師の力を籍ること少くして其の効果を擧ぐるこ



とが出来るのである。是れ何によつて然るかと言ふに、一に青年團の自覺によるものである。補習學校が町村立であるとしても、青年團としては補習教育を援助し完成することがその大なる事業と考へなければならぬ。従つて入學出席の獎勵等皆青年團の事業として實行すべきもので、學校は青年團との聯絡を密接にして、その力を借るべきである。學校自らは等の督勵に時間と勞力とを費すのは不必要であるのみならず、又效果から云ふも寧ろ青年團の勸誘の方がよりよき成績を擧ぐるであらう。

今青年團に於ける補習學校入學督勵の方法を見るに、青年團の會則に團員は補習教育を受く可きものと一般的に規定せるものも

少くないやうである。甚しきは補習教育を受けざるものは團員に加へずとする處もあるやうであるが之は少し極端に過ぎたものであらう。又自分の前任地などでは補習學校の入學願書を青年會長が纏めて學校に差出すことにし、その機會に極力勸誘する處もあつた。要するに青年團の幹部即青年の先輩者流が熱心に生徒を誘ひ、父兄に説くことが最も効果が多いやうである。入學の獎勵に就ては青年團の盡力の外、町村條例を以て義務として強制する方法もあるであらう。之は法律的に解釋すれば出来ることであらうし、又獨逸などで補習教育を義務教育として居る地方も少くないから、將來けさう云ふ機運となるかも知れぬが、今日に於ては



その必要はないやうである。何うせ制裁なき義務であるから強制の道もない。それよりは父兄の申合、青年團の奮起により事實上の義務教育たらしむるやうに努力すべきであらう。

出席の督勵も亦、入學の獎勵と等しく青年團に於て大に努めて貰はねばならぬ。自分の前任地等でも青年團の幹部が交代に補習學校に出席し、教師を助けて生徒の監督をなし、無届缺席者あれば支部の役員に通報して注意を與ふる等の事をやつてゐた町村も少くなかつた。又部落々々に集合所を定めて、そこで部落の支部役員が點檢をしそこから隊伍を組んで登校すると云ふ様な處もあつた。要するに青年自身が補習教育の眞意義を自覺して之が後援

に當ればその効果は著しいものがある。

自分の前任地たる静岡縣安倍郡に於ては、自疆旗と云ふ補習教育獎勵旗を作り、各補習學校の就學歩合と出席歩合とを比較し、その平均歩合の優等なるものに一箇年間之を授けて獎勵してゐる。即ち毎年四月に開く郡の聯合青年會の席上に於てこの旗の授與式を行ふのであるが、その光景が如何にも單純な青年の頭腦を刺戟するので、其後は青年自身が如何にして我が村の補習學校を改善すべきか等の問題を研究し、前に述べたやうなを着々實行してゐるが、是等の結果、安倍郡に於ては男子補習學校の中、就學歩合九〇、以上のもの十九校に達し、其内九校は一〇〇になつて居



る。又出席歩合も九〇、以上のもの十一校に上つてゐる。こんな  
 經驗から云つても補習學校の就學出席は左迄教師の勞力を要せず  
 して相當の成績を擧ぐることに決して至難ではないのみならず、小  
 學校同様の域に達せしむることも決して不可能ではないのである  
 因に安倍郡に於ける就學歩合の算出法は、其の學校の修業年限だ  
 け過去に遡り、其年數の間に小學校を卒業せし児童數より、他に  
 移住せし者、及高等の諸學校に在學せる者を除き、其殘餘を以て  
 補習教育を受くべき児童と假定し、(修業年限高等小學の年限より  
 長ければ高等小學卒業生も之を算入す)之を基礎として補習學校  
 在學生がその幾割に當れるやを調ぶるのである。

## (六) 商議員會

こゝに謂ふ所の商議員會なるものは、夫の商工補習學校の商議  
 員が、主として學校と當業者との連絡を圖り、學校の教育をして社  
 會の實際と離れざらしめんが爲に設けられたのとは餘程精神を異  
 にする所があるのである。勿論如上の目的は農村補習學校にあり  
 ても必要なる事項にして、こゝに謂ふ商議員設置の一理由たるに  
 は相違ないが、必しも之がその全部の理由ではないのである。元  
 來余は補習教育を以て總ての地方開發の中心としたいと云ふこと  
 を常に考へてゐる。町村内に於ける各種の地方開發の事業は何か  
 を中心として聯絡し統一されなければならぬが、それには補習教



育を以て中心とする方最も便利であり、且つ實情にも適すると思ふ。この補習教育を以て地方開發の中心としたいと云ふ考が、この商議員制度の主たる理由であるのである。それで余のこゝに云ふ商議員は、町村長、町村農會長、産業組合報徳社の代理者青年會長、在郷軍人分會長、小學校及補習學校の教師等、町村内公共機關の代表者全部を網羅すると同時に、神職僧侶篤志家等を加へて組織するのである。町村内にある種々の公共的機關は總て一致して町村の改善に盡力しなければならぬのは勿論であるが、事實中々之がよく行はれてゐない。其間に何等方針の打合せもなければ、意思の疏通もなく、思ひ／＼にやつてゐる所が決して

て少くない。又神職僧侶といふやうな、一村風教の中心となるべき地位の人々も、自ら輕んじ人も亦輕んじ、町村改善の問題と何等關係のないのが多いやうである。是等の人々を商議員に推戴して、時々商議員會を開き、學校の状況を報告して種々協議をすることになると、補習學校が確な後援者を有することゝなるのみならず、是等公共的諸機關の連絡統一も漸次實行することが出来るであらう。或は之に對して、以上の人々が皆町村公共の事に熱心であり、且つ人格も相當に優れてゐればよいが、不熱心の人もあれば人格も如何はしい人がある。是等を商議員と仰ぐのは如何であらうと難する人があるかも知れない。併し我々はさう云ふ人で



も、商議員として接近して行く間には、相當に熱心にする事も出来よう。つまり商議員として補習學校の世話を焼いて貰ふと云ふ形式の下に、實はさう云ふ人々を教育して、公共の爲に盡力するやうにするのであると云ひたい。補習教育を以て地方改良の中心としたいと云ふことは我々の宿論である。補習教育を度外視した各般の施設は、事情の變遷によつて忽ち盛衰地を代ふる如き實例が多い。何うしても補習教育によつて各般の施設の根柢を形作る必要があると思ふ。それには所謂その各般の施設と補習教育とを連絡する爲に商議員會の設置は缺く可からざるものである。

### 第三 農村補習教育の内容

#### (一) 普通教育の補習

前にも述べた通り、我々は補習教育の三要素として、普通教育の補習、實業教育及公民教育を擧ぐるものである。従て農村補習教育の内容に關する諸問題は、この三要素の個々が最も有効に教育せらるゝ方法に關する問題と、是等三要素を綜合統一して、補習教育の最後仕上を行ひ、以て有爲の農村的人物を養成すべき方法に關する問題とに外ならぬのである。

第一に普通教育の補習に關する問題であるが、之は小學校の教



員諸君に於て、十分研究されてをること多言を要しなと思ふが、教師諸君の参考迄に我々の希望を簡単に記述して見よう。

一、農村的教材の選擇　この事は教育に携はるもの、誰しも云ふことで、極めて陳腐なる問題ではあるが、實際に於ては未だ十分に解決されてゐないのである。この問題の實際の解決は一に教師の努力によるの外はないが、その方法として自己の町村の研究に今一層の注意を拂つて貰ひたい。近時教育者間に郷土研究の聲が高まつて、中には學校の一隅に郷土室を設けて、各種の教材を陳列作製してゐるやうな所もあるが、誠に喜ぶべき現象である。又町村誌の編纂も所々に行はるゝに至り、之亦甚結構な事であるが

斯の如くして集めたる教材を活用して自由に壇上に驅使し、生徒に徹底せしむるに至つては、未だ十分と云ひがたきを遺憾とする中には前任者が苦心して編纂した町村誌も、後任者は一讀もしてゐないと云ふやうなことも絶無ではないらしい。是等の實際的教材の準備及活用に就ては、普通科目擔任の教師に於て今一層の努力を望みたいものである。殊に統計の活用に就ては、算術科の教師に是非一工夫を願ひたい。現在發表されてゐる國縣郡町村の統計の數字を活用するのみならず、生徒の家庭の状況を調べさせて、之を集めては村の總數を知り、或は平均數を知ると云ふやうにして統計作製の知識と趣味とを與へて貰ひたいものである。例



へば生徒の自宅の鶏の数を調べさせて之を平均せしめ、其の村の  
 一戸平均の養鶏数を知り、進んでは其牡と牝との割合を調べ、傍  
 ら農業科と連絡してこの数字が適當なる養鶏法に合せるや否やを  
 考ふると云ふ様なことも面白い方法である。

二、各科目の連絡 次に注意しなければならぬことは、各科目  
 が統一せる目的の爲に互に連絡しなければならぬと云ふことであ  
 る。大阪府天王寺師範學校の村田校長が、其の著『興國安民法』に  
 發表して居らるゝ生野村補習學校の教授細目などにも、餘程此の  
 點に着眼せられてゐることがわかる。只普通の補習學校で此の點  
 に於て、申分のない細目を作るといふことは、多大の時間と勞力

とを要するので随分困難であらう。どうか之は師範學校か、或は  
 補習教育研究會とかいふ團體で、其地方に應じた各科目の細目を  
 作り、各學校では其村の事情に應じ、幾分の取捨をするといふこ  
 とにしたならばよからう。伊豆の伊東で篤志家の先生がやつてゐ  
 る夜學では、一箇月に一つづつの研究題目を選んで、之を中心と  
 して補習教育を施してゐた。そして其内の一つは甘藷の栽培とい  
 ふ題目であつたが、それは甘藷栽培の獎勵が其村の農事の一方針  
 であつたから、作文の時間に、甘藷の主産地に品種、收穫高、取  
 引先價格等を問合はする文を作らせて、其の出來のよいのを習字  
 の時間に清書をさせて其儘郵便で發送してやり、返事が來れば農



業科で研究をし、收支の計算を算術科で行ふといふ風にして居る。之などは餘程参考になることと思ふ。

尙ほこの連絡問題に附け加へて置きたい事は、連絡統一の目標として、一學年を通じた題目を掲げてやる事で、例へば一年二年は家を治むるといふ事を題目とし、三年四年は町村の公民としての心懸を題目とし、五年六年は國家的思想の注入を題目とするといふやうな遣り方を考へてゐる人があるやうである。前に述べた生野村のも其の通りである。之は悪い事では無論なからうが、尙ほ研究の餘地があるであらう。公民教育といふやうな事を三年四年だけに止め、五年六年は之に少しも觸れぬ、又國家的教育も五

年六年に行くまではかまはないといふのでは如何かと思ふ。かういふ事は程度こそ違ふが、初學年より高學年に至るまで、繼續的に教へる必要があると信ずる。それで、一年一題目といふ事は、私にはどうも考へ物と思はれるのである。

三、其他の希望 普通教育の補習に關する問題に就て主要なる事項は、今述べた教材の選擇と科目の連絡とであるが、其他余の經驗よりする二三の希望を記して教師諸君の參考に供したいと思ふ。其一つは修身科の教材として神代の事蹟を加へて貰ひたいことである。之は歴史を科學として見る頭から云へば、神代の事蹟などは正確を缺くから、あまりに觸るべきものでないと云ふこと



になるか知らぬが、國體の觀念を養ひ、忠君愛國の思想を養ふには、何うしても建國當初の事蹟を知悉せしむるの必要がある。農村教育の模範とも云はるゝ、丁株の高等農民學校の主唱者たるグランドウキツヒの如きも、宇宙人は脚なしと叫んで國民的歴史教育を高調し、所謂北方の神話を普及するに力めたのである。我が補習教育に於ても、神代の事蹟を教へて、建國の理想の雄大正純なることを生徒の頭腦に徹底せしむること實に方今の急務である。この點は公民科の國體の處でも大に意を用ひなければならぬが、修身科乃至國語科に於ても大に考へなければならぬ。次に余の希望する處は讀書力及理解力の養成に今一層力を用ひられたきこ

とである。讀書力に就ては説明の要もあるまいが、現在の農村の青年が讀書をし又は講話を聞きて、その要領を把握する理解力の乏しいのは實に遺憾である。一場の講演の後簡單にその要領を筆記せしめんとすれば、大體の趣旨を閑却して、面白き譬喩若ば譬喩等のみを記憶してあるやうなことが往々にしてある。この短所を救ふには補習學校に於て時々雑誌の論說等を讀ましめて其の要領を書き取らしめ、又は話をして要領を書取らしむる稽古をさせるの外はないであらう。近來各地の青年團等に於て所謂名士を招聘して講演を聞くこと非常に多きも、肝腎の青年が前述のやうな風では何等の利益もないことであるから、之は教師諸君に於て十



分矯正の途を講じて貰ひたいものである。

四、普通科目の擔任教師 序にこの普通科目の補習といふ處で一言して置きたいのは教師問題である。將來は農村指導者といふやうな人が、専門的に之に當る様になるかもしれないが、現在の處では、實業科目以外の普通科は、小學校の先生が兼ねる外はあるまいと思ふ。そこで出て來るのが小學校教師の勞力問題及び修養問題である。晝間數十數百の兒童を相手に心を勞して居る先生に夜間尙ほ補習學校に勞力を課す事は到底堪へ難い所である。又斯くては小學校教師の修養の時間を全然奪ひ去る事となるといふ議論である。之れは尤な説であるが、要するに程度の問題である。

普通の農村の小學校は大抵六七學級以上の學校で、教師の數も相當にある。是等の人が交代に補習學校に出るとしたら、大抵一週間に二晩位で間に合ふのである。此の位の犠牲は苦痛といへば苦痛であるが、補習教育の意義と價値とを理解する人には何でもなからうと思ふ。山間地方の單級の學校やら二三學級の學校で、正教員の數が少い處では、補習學校の授業日數を一週間四日とか三日とかに減少するの外はあるまいが、之は已むを得ない事である。その代り修業年限を長くすれば相當の結果は得られよう。要するに教師一人の一週間に於ける教授夜數は、二夜又は三夜までは差支あるまいと思ふ。四夜以上にもなつたら、之は何とか法令を以



て制限する必要があるかも知れない。現に愛知縣では此方針で制限を加へてゐる。三夜以下と言つても其勞務は慥に同情に値すべきものであるから、管理者としての町村は、出来るだけ多額の報酬を給して、之に對する謝意を表さねばならぬ。私の前任地では町村及設立者が支出する報酬の多寡に應じ、郡費の補助を與へて、之が増加を獎勵して居たが、幾分の効果はあつたやうに思ふ。

(二) 實業教育

一、農業科擔任教師 實業補習教育の未だ振はざるは、一に農業科の不振によると言つても差支ない。而して農業科の不振は主として良教師を得るの困難に原因するやうである。して見れば農

業科擔任教師の問題は補習教育の内容に關する諸問題中、餘程主要なる位置を占むべきものであるが、その解決は極めて簡單である。即ち農業の専門教育を受けた人を以て教師にするのである。甲種程度の農學校卒業以上の學力を有し、然も實地に明るい人を選ぶのである。只經費が豊かで、かういふ先生を専任で聘することが出来れば之に越した事はないが、今日の經濟狀態では、多くの學校に於て出来がたい相談であらう。そこで町村農會の技術員に、甲種程度以上の農學校卒業生を聘して、補習學校を兼ねて貰ふのである。之は一舉兩得の良法で、町村農會の活動方法としても、技術員設置は極めて望ましい事であるし、補習學校としても、相



當の學力がある上に、其村の實際の農業状態によつて教へる事が出来たら、其の教授が活きて來る、従つて生徒に農業科の趣味を生じて來るのである。

今迄の補習學校のやうに、小學校の先生が自分にもあまり趣味のない農業科を擔任し、教科書を後生大事に辿つてゐるのでは、農業科の教授が活きて來やう筈がない。従つて生徒は、農業科は厭なものだと思ひ込むのである。併し之は無理もない話で、師範學校に入るやうな人は元々農業に關して大した趣味を有たぬ人だらうし、それに師範學校の農業科教授も近頃は餘程進んでゐるやうだが、以前はそんなにもなかつたらしい。師範學校出の先生に

農業科を擔任させて、十分の効果を望むのは、望む方が無理かも知れない。但し補習學校の初學年では、農業科もほんの大意であるから、師範出の先生でも差支はあるまい。この場合には農業講習を受けるとか、或は打合會のやうなことを行ふて、學力を補充する必要があらう。この小學教師に農事講習を課することは、文部省でも非常に奨勵して、各縣でも着々實行されてゐるから、今後は相當の成績が擧ることゝ信ずる。

町村農會が技術員を置く程進んでゐない處では、已むを得ず師範出の先生に願をする外はない。高等小學の農業科を擔任してゐらるゝ先生ならば、平素の心懸も違ふであらうし、前に言つ



た講習を受けたり、實地の打合せをやつたりしたら、相當の成績を擧ぐる事が出来やうと思ふ。要するに町村農會の技術員に兼ねて貰ふのが最も効果あり、且つ實行し易い方法である。補習教育を考へないで、單純な町村農會技術員として見ても、その効果から云へば、年額三百圓やそこらの経費は何でもないのである。町村農會で現在品評會とか、いろいろの事業をやつてゐるが、是等のものを全部廢しても、適當なる技術員を置く方が、町村にとつて遙に利益である。年額三百圓位の経費は現實に收穫の際とりかへして餘りあることゝ信ずるのである。この事は農商務省でも極力獎勵して居らるゝやうであるし、府縣でも段々實行され

て誠に結構であると思ふ。只町村農會に技術員を置く事は段々普及しても、この技術員に補習學校の農業科を受け持たすと云ふことは、その割に行はれてゐない様である。之は農會と學校との連絡がうまく行つてゐない爲でもあらうし、補習教育の價値が一般に了解せられない結果でもあらうが、如何にも残念なことである。自分の前任地では、町村農會の技術員が補習學校教員を兼ねると云ふ條件の下に、郡費より郡農會を通じて、町村農會に技術員俸給の三分の一を補助してゐる。何とかしてこの技術員に農業科教師を兼ねしむることを普及させたいものである。只この場合に考ふべきは技術員の人選である、若し之を誤つたならば技



術員として差支ないが、教師として極めて不適任である事がないとも限らない、之は十分に注意すべきであらう。其の他相當の農學校卒業生が村にあれば、報酬も少く出て呉れるだらうし、かういふ場合には、必ずしも農會の技術員たるを要せぬことは勿論である。

二、農業科教授の内容 農業科教授の内容に就ては、我々専門外の者が喩を容れないでも、適當な教師を得れば、適切な教授を施すであらうが、唯一つ當事者に對して注意を願ひたいことがあるそれは補習學校に於ける農業科目として、農業大意、米麥作、果樹蔬菜、土壤及肥料、病蟲害、養畜養蠶林業等を教授する外に農

業法規及農業經濟に關する事を閑却しないことである。今日の甲種乙種の農學校を見ても、何れも前者を重んずるに比して、後者を閑却する弊があるやうに思ふ。換言すれば従來の農學校などのやり方は、農業的であつて農民的でない。或は農村的でない。補習學校に於ては此の點に注意しなければならぬ。殊に産業組合と農家經營法の爲には充分の時間を割きて、徹底した教授を施すの必要があると思ふ。産業組合に就てはあらためて云ふ必要もあるまいが、農家經營法に關しては少しく説明して見たいと思ふ。

一體今日の農村の實状を見ると、農會以外各種の同業組合があつて夫々専門的にその發達進歩を企てゝゐる。自分の前任地など



も茶業組合、蠶絲業組合、柑橘同業組合、産牛馬組合等の種々の組合あり、又生薑糸瓜落花生組合、甘藷切干組合など云ふものもあつた、是等の組合には夫々技術員が居つて、町村に出張して夫々奨励の途を講じてゐる。茶業組合の技術員の話聞けば、茶の製造が最も利益であるやうだし、蠶絲業の技術員の話には國富の増進は養蠶に限るとあるし、其他の組合の技術員も夫々その事業に就て奨励してゐる。聽いてゐる方の農家では實に迷はざるを得ないのである。是等の専門の話も無論必要であるが、是等の話を咀嚼して、自分の有する耕地に自分の持つてゐる勞力と資本とを、何んな風に運用するのが、農家として最も利益であるかを

判断する頭腦が最も必要である。不幸にして今日の農夫にはこの頭腦が極めて乏しい。だから世の風潮につれて、稻を扱いで梨を植ゑたり、桑園を止めて茶の實を蒔いたり、高値々々とねらつて行くが、それが外れて損ばかりしてゐるのが、往々にしてあるのである。自分の持つてゐる耕地は田が何町歩、畑が何段歩で、宅地は何坪、それに働き盛りの若い者が何人で、老人と子供が何人である。それならば作物の選擇、勞力の分配は何うしなければならぬと云ふ定見があれば、こんな輕卒な誤りは決してないのである。補習學校に於て是等の農家經營の頭を充分に拵へて置かなければならないと思ふ。又農家の多くは家計簿の整理を怠つてゐる



家計に關して何等豫算もなく、決算もなく、漫然として其日々々を過してゐるのであつて、歳の暮になつて何とはなしに、今年も負債が増したとこぼしてゐるやうなものが少くない。損をして負債が増したのなら、その原因は何處にあるかとつきつめやうとしても、豫算決算の對照もなく、又家計簿の記帳も不完全極まるので中々わかりにくい。生活費と事業費の區別もないから、損益計算がはつきりしない。こんな風では小農は段々苦しくならざるを得ない。斯の如き實情であるから、補習學校に於て農家經營法の一部として、家計簿の整理方法を十分に教へて置く必要があるのである。その他負債が多くて一家が悲運に傾かんとした場合に、

その家政整理は何う云ふ點から着手しなければならぬか、又収益財産と無収益財産、例へば家庭園什器等は何んな割合になつて居ればいか、是等の問題が總て農家經營法として研究されねばならぬ。宅地利用法の如きも無論農家經營法の一部である。補習學校も其の他の農業學校と共に、農業技術を重んずると同時に、是等の農事政策に關する事項をも十分研究して、本當の農村的の農民を拵へて貰ひたいものである。

三、農業科の實習 補習學校に於ける農業科の實習は、之を實習地による實習と、之によらざる實習とに分つことが出来る。余はこゝに實習地による實習として共同實習と個別實習とを説明し



實習地によらざる實習として作業實習と一事研究とを記述して見よう。

イ、共同實習 共同實習と云ひ、個別實習と云ふのは如何にも名前はをかしいが、外に簡単な云ひ表し方がないから、假にかう云つて置くのである。共同實習と云ふのは、普通の農學校にあるやうな一定の實習地を置き、生徒全部をして共同して實習に當らしむるのである。一定の實習地を設けることは、夜學組織の補習學校には幾分困難の點もあるであらうが、小規模にても必ず實行しなければならぬと思ふ。それには何うしても前に述べた晝間召集を行つて實習を課さなければならぬ。只この場合に注意しなければ

ばならぬのは、晝間召集の人員である。訓育の爲にする召集、又は農業の臨地講話の爲にする晝間召集は、全部の生徒に對して同時に於てよろしいが、實習の爲にする晝間召集は、實習地の面積に應じ其の要する勞力に應じ、相當の人員を交代に召集するを要するのである。二十人位で二時間も働けば十分なる手入に五十人も召集するとなると、多數の生徒は傍觀して遊んでゐて、實習をやつてゐるものもほんたうに勞作に身がいらぬやうな結果を來すのである。斯の如き實習は勞働の神聖を害し、力行勞作の良風を破るものであつて訓育上少からぬ害毒を流すものである。少くとも二時間位は全力を盡して勞働の出来るやうに、人員を制



限するの必要を忘れてはならない。一體この共同實習の目的は、  
 一、作物に關する各種の觀察及試験、二、勞作を課して訓育に資  
 すること、三、土地の經濟的利用に關する研究、の三種であるで  
 あらう。この三つの目的を十分に達し得れば、完全なる共同實習  
 と稱して可なりである。第一の作物栽培に關する觀察及試験に就  
 ては、農學校乃至高等小學校等に於ても相當に實行されてゐて、  
 而かも其の成績の擧否は一に教師の手腕によることであるから、  
 茲に多言を弄するの必要はない。第二の訓育としての勞作に就て  
 は今述べたやうな點に注意するの外、教師の實踐躬行的指導の必  
 要を忘れぬやうにして貰ひたい。最後の土地の經濟的利用の研究

に就ては、現在多くの農學校等に於てもあまり重きを置かれてゐ  
 ないやうに思ふが、之は前に農家經營法の重要な學科であるこ  
 とを説いたのと同じ理由により、補習學校に於ては大に重んじ  
 て貰ひたいことである。静岡縣の豊田村八幡の補習學校では、全  
 校の生徒を三中隊に分ち、一中隊に一箇所づゝの實習地を附屬せ  
 しめ、その一年間の土地利用法は、何を栽培しようと各中隊の自  
 由とし、最後に收支計算をなして、利益を最も多く残した中隊を  
 表彰して校旗中隊となし、一年間は校旗を擁護するの名譽を擔は  
 しむることとしてある。そして奉送迎等の場合には、その中隊が  
 校旗を擁して前列に立つ仕組になつてゐる。是等は土地の經濟的



利用を自發的に教へやうとしてゐる一例である。又現在やつてゐる所は知らないが、中等農家の宅地に相當する實習地を設け、宅地利用法を研究させて、趣味と實益とを合せ得る方法の如きも面白いことであらう。

ロ、個別實習 個別實習と云ふのは、生徒の家庭に於ける實習地により、個々に行はしむる實習である。この個別實習は夜學組織の補習學校に於ても、何等困難なく行ひ得るのである。近頃各地の小學校に漸次普及して來た一坪農業は即ちこの一種であるが、補習學校の個別實習としては、一畝歩農業位が丁度適當であらう。即ち生徒の家庭に於て一畝歩の耕地を分割して生徒の實習地とし

學校の指導に依つて經營せしむるので、その意義價值等は、大體に於て一坪農業と同様である。之は實際やつてゐる處も段々殖えて來るし、普通の農村では、父兄の方でも大した苦痛でなく、最も良好な實習方法であらう。但し地方の状況により、必しも一畝歩に限るの要なきは勿論である。十坪二十坪乃至百坪、何れにても差支あるまい。只幾坪にせよ面積を一定して置くことは、其の成績を比較し、各種の計算をなすに必要であらう。個別實習の實施方法に就ては、種々研究すべき問題が少くないが、今簡単に一通りの説明をして見よう。先づ學校に於て個別實習を課するには第一に作物の選定をなさなければならぬ。そしてその選定は、各



學年に於ける農業科の配當と相應じ、學校に於て教授を受くる作物を選むべきを原則とする。只養畜養蠶、土壤肥料等の學年に於ては、なるべくその地方の普通作物を選定するのが適當であらう作物の選定が濟めば、その作物に適する土地を家庭に於て選ましめ、然る後簡單な測量方法を教授して、生徒に丈量せしめなければならぬ。次には學校に於て栽培に關する試験の種類を決定する例へば肥料試験には、何と何とを用ふると云ふやうな試験の種類を決定して、生徒をして之に基いて、一の栽培計畫案を立てしむる。然る後その計畫に基いて栽培せしめ、教師は時々實地指導を行ふのである。かう云ふ點から云つても、農業科の教師が農會の

技術員であることは非常に便利である。但しそれにしても全校の生徒の個別實習を、時々巡回視察すると云ふのは困難には相違ない。さう云ふ場合には、上級の研究科の生徒に、方面を分つて分擔せしめ、視察と指導とに當らしめても差支ない。それにしても一作物の學問に、一度や二度は、教師自身巡回するやうにしたものである。尙生徒は別に栽培日誌を備へて、栽培の状況を詳細に記述し、一は試験の結果を明にし、一は收支の計算に資せねばならぬ。斯の如くにして栽培を終り、收穫するに至らば、學校に於て品評會を開くもよからうし、市場に近い處では、共同販賣して代價を貯蓄せしめ、傍ら産業組合の實習に資するの妙であ



らう。斯の如く全部の作業を終りたる後、生徒をして総合的研究の結果を提出せしむることとしたならば、益々其の効果を大ならしむることが出来よう。即ち各種試験の成績及整地、除草、耕耘、灌排水、病虫害の豫防驅除、施肥等の作物に及せる影響を詳記し且つ收支の計算を明にして、實習に關する各種研究の結果を提出せしむるのである。之は栽培日誌に、總て斯の如き事項を記述せしめ、最後に以上の結論を作製記述せしめて、日誌其物を提出せしむることにするのが最も良好なる方法であらう。そして學校に於て、收穫物の品評會を行ふ如き場合には、この栽培日誌も共に品評審査して、その研究の結果に對して賞與を與ふることとした

いものである。斯の如く各方面に注意して施設すれば、個別實習の効果は、補習教育上決して輕視することは出来ないのである。之は尙各地の補習學校に於て大に研究して貰ひたいと思ふ。

ハ、作業實習 農村に於て副業の必要なることは、何人も認むる所であるが、その實際の普及は中々困難である。補習教育に於てもかう云ふ點を考へ、或は廢物を利用し、或は原料品に加工する農村的手工業を興すことを研究したいものである。之れが爲めに一週間に一晩位は學校に於て作業實習を課することが必要であると思ふ。その種類などは土地によつて大に異なるであらうが、藁細工などは最も普通で、山林地方では藁細工、曲木細工、竹行李等



があらうし、其他菅笠、竹細工等、所によつていろ／＼の種類があらう。伊豆の松崎で學校の手工に團扇竹を削らしたのが因で遂に土地の物産となつたと云ふ實例もある。斯如き方面にも補習學校として大に盡したいと思ふ。尙この作業實習は單に副業獎勵と云ふ點よりのみ見ないでも、訓育の一方法として極めて重要なことである。之は獨逸の勤勞學校の主張等を聞けば、如何にも尤に思はれるし、又我邦の教育家の中でも、個性訓練の方法として作業の有効なことを力説して居る人も多し、旁々大に獎勵したいと思ふ。又一面生徒に貯金をさせるとか、學校で特殊な財源を作るとか云ふことにも利用が出來やう。やり方によつては一舉兩得も

三得も出來ることと思ふ。土地の實狀に應じて大に研究して貰ひたいものである。

二、一事研究 農業科實習で今一つ考へて貰ひたいのは家庭實習の一つとしての一事研究である。之は如何するかと云ふと、補習學校の生徒が、自分の家庭の農家生活の一部を、直に取つて自己の研究事項とし、教師は之に對して特別の指導を與へ、學校と家庭と連絡してその生徒の研究、實習を助けて行くのである。例は甲の生徒は家計簿の整理を實習事項即ち研究題目とするすれば父兄とも協議の上其家の家計簿はなるべくその子供に整理させ、その整理の方法、形式等を実行しながら研究させ、教師も特に氣



をつけて指導してやると云ふ様にする。或は乙の生徒は農具の手  
入と、丙の生徒は養鶏、丁は宅地利用、戊は花卉栽培とか云ふ風  
に、家庭に於ける農家生活の一部を、直にとつて實習研究せしめ  
その實習事項に關係の近い學科の受持先生が、特別の指導を施し  
て行くと云ふ様にしたいと思ふ。この方法は全部の補習學校生徒  
にやらせるとしては、先生の方で大變だらうが、五學年以上位の  
上級生にやらせることゝすれば、指導も行き届き、成績も相當に  
舉るのであらうと思ふ。我々が特にこの實習法を主張するのは、  
一つは研究心が乏しいと云ふ日本人の短所を打破したいのと、今  
一つ學問と云ふものは學校で教はるか、本をよまなければ出來な

いと云ふ考を排斥して、實際の作業をやりながら、相當の研究を  
なさしめたい爲である。又こんな風に研究的態度で農家生活を行  
はしむれば、必ずやその間に、言ふべからざる趣味を感ずるに至  
るもので、この趣味を以て、農村の生活を精神的に豊かならしめ  
愉快ならしめんと欲するからである。この問題に關しては尙幾多  
の論點があるが、今はこの位に止めて、讀者の研究を煩しいと思  
ふ。尙この事は單り補習學校の問題に止まらず、甲種乙種の實  
業學校に於ても亦考へて貰ひ度いものである。

(三) 公民教育

農村補習教育の要素として、公民教育の缺く可からざることとは



前にも述べた通りである。それでこゝには、公民科の設置、公民科の内容、公民科の實習即ち公民的訓練の三點に就て少しく意見を述べることとする。之に就て誤解して貰つて困ることは、補習學校の公民教育問題が、この三點に盡くるのでは決してない。補習教育のあらゆる部分、即ち全部が公民教育的傾向を有せねばならぬ。即ち如何なる學科も、如何なる施設も、總て公民教育と云ふことを、眼中に置いて教へられ、實施せられねばならぬことは勿論である。

一、公民科の設置 補習教育の要素として公民教育の必要なことを唱導すれば、勢ひ公民科といふ一の科目を設置することを主

張せざるを得ない。國語科等に於て、公民的教材を増加するといふ様な、手ぬるい遣り方で満足する譯には行かない。どうしても獨立したる一科目を置いて、徹底したる教育を施す必要がある。そしてこの公民科は、修業年限の所で述べた如く、普通科六年、研究科二年と云ふ學校であれば、三年以上の各學年に課したならばよからう。或は前に述べた通り、高等小學の卒業生を四年に編入するとすれば、四年から一緒に初むる方がよいかも知れない。それから公民科擔任の教師であるが、専門の教育を受けた人で、青年の指導や、町村の改善に熱心な人が村に居れば、かう云ふ人に依頼するに越したことはない。斯の如き人々を縣や郡に集めて、



講習でもして教授の統一をはかるやうにすれば、尙結構であらう。將來は漸次斯の如き人々が、町村の爲に活動して、町村指導者と云ふ一の地位が確立するやうになるであらうと信ずるが、現在に於ては斯の如き人は、まだ僅かであるから、現在の多くの補習學校に於ては、校長自身が公民科教授を擔任することにしたいと思ふ。一體小學校の校長即ち補習學校の校長は、町村に關する一通りの問題は研究して置かねばならぬ。現在の状態では、如何にも心細い憾が少くない。この點から云つても公民科の新設は有益である。即ち教師側に公民的智識の研究を促す一つの動機ともなり、刺激ともなるであらう。最後にこの問題に就て、一言して

置かねばならぬのは、現在の文部省の規則によると、補習學校に公民科なる學科はないことになつてゐる。この點に疑問を懐く人もあるであらうが、文部省の規則には、地方の状況により、其他の學科を加ふるを得となつてゐる。理窟は少しをかしいが、之れで許して貰ひたいと思ふ。余の前任地の郡の補習學校は、大部分公民科を置いてゐるが、皆これで許して貰つたのである。

二、公民科の内容 公民科教授の方法としては、總論的、抽象的の方面と、各論的實際的の方面との二つが相伴ふてゐなければならぬ。即ち總論的抽象的といふのは、國體の觀念、立憲政體の思想を明にし、自治制の沿革大要を示し、國家と自治體とに對



する臣民の心得を説き示すことである。そして之を教ふるに完全な教科書が必要である。現在大隈伯の『國民讀本』、竹越氏の『國民讀本』などがあるが、どうも此の目的の爲めには不充分のやうである。之れは文部省で編纂するか、又は相當の學者に著述して貰ひたいと思ふ。中央報徳會でも『自治讀本』を刊行する計畫があるとの事であるが、何處でもよいから、成るべく早く實現されんことを望むのである。又此の目的で、夜學讀本を郡の教育會や村でこさへてゐる處もある。三重縣の員辨郡の多くの町村の如き静岡縣田方郡の函南村の如きはそれである。併し之は地方的に小學校の先生方でよいといふ譯にも行かぬから、中央の相當の學者

に是非執筆して貰はねばならぬ。それから各論的實際的といふ方は、其の地方々々の町村の實際生活に、公民的法的解釋を附して行かうといふやり方である。例へばこの道路は縣道であるか、里道で補助道路であるか、縣道ならば修繕費は誰が出すかとか、河川にも此縣では一類から五類迄類別があつて、經費の負擔方法が夫々違ふとか、或は村の神社は郷社か村社か無格社か、是等の區別は何う違ふか、又時に郡役所の人達が衣冠束帯で、神官然として來るのはどういふ意味であるとか、其他自分の周圍を取り巻いてゐる町村生活の現象に、法制的、公民的解釋を與へ、尙進んで自分の町村の長所と缺點と



を明かにして、改善の方法をも研究するといふやうな教へ方もしなければならぬ。之は中央で劃一的に教科書を作ることも出来ぬから、縣若は郡あたりで、大體の教授參考案でも作つて各學校に配付し、各學校では之を自分の村に適合するやうに取捨選擇してやるのが、最も良好な結果を收むることが出来やうと思ふ。

三、公民科の實習——公民的訓練 公民科の實習即ち公民的訓練は各種各様で、大に實際家の工夫を要する所であるが、こゝには一定金額の有効使用問題と、公共生活改善方法の思付募集と其他二三の意見を述べて見よう。

1、一定金額の有効使用問題 その方法のやり方は補習學校の經費の

中で、公民科實習費として五圓でも十圓でも計上して、その金額をその村の爲、或は青年會の爲、補習學校の爲、何う使へば最も効果のある理想的な使ひ方となるか、と云ふ問題を出して、生徒に答案を出さしめる。そして學校では之を審査して、最も有効の答案を定め、其答案の如くに其金を使つてやるのである。或は此際一等二等に賞品を出すとか、いろいろの獎勵方法もあらう。又審査委員には學校の先生丈でなくて、村長、農會長等の人を加ふることもよからうと思ふ。以上はこの方法のやり方の大要であるが、公民的訓練としての効果が何れ丈あるかと云ふに、第一に今の青年は國家の爲、町村の爲、盡さなければならぬと云ふこと



はよく知つてゐる。話に聞くのみならず、青年會の五分間演説でも聞いてゐると、滔々とかう云ふことを論じてゐる。併し一つ突つ込んで、それならば何うすればこの村の爲になるか、と云ふ具體的の方案になると、一向に無頓着のものが多し。之即ち頭が公民的に訓練されてゐない結果である。こんな青年が公民となり、村會議員となつて、豫算を議しても、本當に村を改良することは中々むつかしからう。それで今言つた方法で、五圓でも十圓でも與へられたる金額を、此村の爲に何う使へば、最も有效であるかと云ふことを考へさせれば、頭が段々かう云ふことに慣れて來て終には村の改良は何う云ふ點に目をつけねばならぬか、と云ふこ

とが自然にわかつて來て、豫算を議するにも、一通りの見識を持つやうになるのである。その實際上の効果は、或は教科書で公民的知識を與ふるよりは或は優るものがあるかも知れないと思ふ。その第二の効果は、特に青年會でこの方法をとる場合に最も表はれ、團體員に團體の事業に對する責任を自覺せしめることが出来る。自分達も経験があることであるが、地方の青年會に行つた場合に、會衆の一青年を捕へて、その青年會の事業及び成績などを尋ねて見ると、一向に知らぬのが多い。かう云ふ場合には、青年會の幹部たる學校の先生などが飛んで來て、事業はこれ／＼で、成績はこれ／＼と、巨細に説明されるが、自分等は學校の先生に



青年會の事業を説明して貰ふより、寧ろ青年自身に説明して貰ひ度いのである。然るに往々之が出来ぬのは、青年會の事業は幹部の事業で、會員の事業でないといふ云ふ缺陷があるからであらう。この缺陷を救ふ爲に、この方法で一般會員に答案を募つて、その最上のものを實行すれば、會員と事業の關係が密接になつて、自然にその事業に對する親しみも出で、結局團體の事業に對する團體員の責任を、知らず識ずの間に自覺せしめることとなるのである。これを補習學校などで、青年會と共同して公民的訓練の一方法として用ひて見度いのである。又このやり方の實例などに非常に面白いものもあるが、あまりに長くなるから省くこととする。若しこ

の方法に興味を感ぜらるゝ方は静岡縣安倍郡入江町村自治協會で發行してゐる『町村及家庭』の大正五年二月號を見て頂きたい同號は金の使ひ方研究の特別號で、この事に關する理論と實例とを澤山集めたもので、御參考になることと思ふ。

口、公共生活改善策思付彙集 之も趣意は前のと略同様である。こゝに公共生活と云ふのは町村民としての生活、青年會員としての生活、學校生徒としての生活と云ふ様な風に、公共的共同的生活の全部を總稱したのであるが、是等の生活の範圍内に於て、何んな小さなことでもよいから、改善策の思付を募集する。例へば學校へ來る途中『肥しだめ』が澤山あるが蓋をしてないから臭くて



困る。あれに蓋をすることゝすれば、肥料分の發散を防ぎ得て、決して不經濟になるまい、と云ふ思付が出る。さうすると學校では肥料分の發散と蓋の費用とを研究して、不經濟になるか、どうかを決定すると云ふ様にする。又毎朝街道を通れば馬糞が澤山落ちてゐるが、小學校の生徒が毎朝登校の時に拾つて来て、それを學校に集めて堆肥を作つたらよからうと云ふ様な、各種各様な思付を募集する。又學校のやり方でも、先生が氣の付かぬ處で生徒が迷惑を感じてゐることも少くあるまい。さう云ふ場合にはこの思付で遠慮なく云はしむるやうにする。こんな風で集つた改善策の思付を學校の公民科で研究して、學校で實行すべきは實行し、役

場に注意を促すべきものは役場に送り、農會青年會に關するものはその方に送ることゝする。そして實行の出来るものは直に實行して貰ふことにする。かうして月に一回位づつ募集して實行してやれば、生徒の方では自分の小さな頭から割り出した事が、此村の公共生活を幾分でも改善して行つて居ると思ふその愉快、之が即ち公民として最必要な公共心の萌芽となるのである。人生の意義に對する眞面目なる了解も、修身の教授に起らずして、却つてこの訓練に起ると云ふこともあらうから、一定金額の有効使用方法と併せ用ひてその効果を擧げたい。

ハ、其他の實習方法

公民科の實習方法は、上述の二方法の外、い



ろくあるであらうが、今實行し易い方法を一二述べて見よう。其の一つは擬町村會である。之は何か學校及生徒に於て、相談すべき議件でもあつた場合に、町村制の明文に基いて議員の選挙を行ふて、村會を開いて決議をするのである。一級二級の區別は年齢でもよからうし、或は學校の出席數によるのも妙であらう。投票函は役場から借りて來て、投票用紙も形式を整へ、立會人を任命して投票を行ふこととする。選挙會を開いて當選者を決定し、當選證書を交附して議員が出來れば村會を開き、教師は村長となりて議案を提出し決議をする。前に述べた有効使用法や、改善策思付募集の答案などで、教師が審査して最も優良なるもの二三を

を選び、其の中の一等を決定する爲に、この村會の議にかけるも面白からう。或は假設的の議案を出して論議をさせることもあるであらうが、この場合には提出の議案を餘程注意しないと、只の討論會となつて、村會と云ふものは只論難攻撃さへすればよいと考ふる弊害に陥るかも知れない。是等は實際に臨んで深く注意すべきことであらう。それから級長其他實際に役員が必要であれば、之はなる丈嚴肅な選挙を行ふやうにして、選挙の神聖なることを平素十分に感得せしむる機會としたものである。其他直接公民科の實習とならないやうでも、共同と規律との訓練は公民にとりて最も必要なことであるから、運動會、遠足と云ふやうな時でも



この二つの訓練には餘程注意しなければならない。旅行等の場合に、漫然とごたく出掛けるのと、隊を分ち、係りを定め、夫々用務を分擔して行くのとは、其效果に於て雲泥の差があるのである。又、青年團其他の會合の時なども、二三の幹部ばかり非常に多忙を極めてゐて、一般の會員は何もしないでぼんやりお客にでも来たやうな風で居る、是等の場合にも出来る丈用務を分割して組を拵へて之に當らしむると云ふやうにするのが、矢張り公民教育として大事なことである。其の他種々の訓練方法があるであらうが、それは當事者の實際的研究によつて、教へを受けたいと思つて居る。

(四) 研究科の施設

補習教育の三要素たる、普通教育の補習、實業教育、公民教育の諸問題に就いては、大略ながら以上述べた通りであるが、この三者を綜合統一して補習教育の仕上げをなすには、研究科の施設が必要である。

補習教育は已に普通教育の仕上げであるが、研究科は又補習教育の仕上げである、補習教育は實社會と密接で、不可離のものでなければならぬが、特に研究科は其接合點である。形式的諸問題の處で述べたやうに、私の前任地では普通科六年に研究科二年を標準としてゐた。研究科と云ふけれども、實はこの方が本科で、



前の六年は豫科である、と云つた方が適切であるかも知れないと思ふ程、重要な問題である。研究科の施設のない補習學校や、あつても本當に活動してゐないものは、補習教育として未だ充分のものとは言はれないのである。

### 一、研究科施設の方法

研究科のやり方に就ては、それ／＼意見もあることであらうが、自分達の最適であり、有效であると信ずるものは大體左の通りである。

普通科を修了した生徒は、なるべく研究科に收容し、學校に於ては、前以て町村の實生活に最密接なる數種の問題を選び置き生徒の志望により、その何れかを研究せしむるのである。研究科

は普通科と異り、教へると云ふよりも、寧ろ自發的に研究せしめ教師は只研究の指導者となり、相談相手となるに止るから、授業日數の如きも、普通科の如く毎晩でなくともよからう。殊に何れも二十歳前後の青年だから、あまりに多くの時間を要求するには、家庭に於ける事情よりしても無理であらう。それで學校に來るのは一週間に二晩位が適當で、或は一晩で良いかも知れない。要は前に實業教育の一事研究の項で述べた通り、生徒の家庭の状況、將來の志望等を參酌して、最適なる研究項目を選ばして、家庭に於ても常々研究的態度を持続せしむることにあるのである。以下項を分つて研究の方法に就て細説して見よう。



イ、研究題目の選定 前にも云つた通り、研究題目は、その町村の實際生活に最密接なものを選ばねばならぬ。例へば『本村に於ける信用組合の價值』と云ふやうなものもあらうし、その村の特産物の生産、販賣、組織の研究や、又空地利用法、町村經濟統計の作製、副業調査等、種々の研究題目があるだらう。要は抽象的な題目で一般的研究をするのでなく、具體的な題目で、その町村に於ける實際的研究をなすのであるから、それに最適した題目を選むことが大切である。而してこの題目は五六種位選んで置いて生徒に選擇させるのであるが、この場合に注意して貰はねばならぬのは、單純な好惡の念より無雜作に選擇する如きことを防ぐこと

とである。その生徒の家庭の狀況、職業の狀況、本人の性質趣味等をよく考察して、その生徒の生涯を通じて、最密接なる題目を選ばしむるやうに指導せねばならぬ。つまり研究科の研究はその生徒の一生を通じて、相當の利益を與ふる底のものでなければならぬのである。

ロ、指導案の作製 研究題目が選定せらるれば、學校に於ては指導案を作製しなければならぬ。指導案は一種の教案であつて、毎週に割り當て、研究の功程を豫定するのである。例へば『本村に於ける信用組合の價值』と云ふ研究題目であれば、第一週間目には記憶を新にする爲め、本科でやつた信用組合のことを復習する。



第二週間目、三週間目には、縣下の優良信用組合の事蹟の主要に就き、印刷物によりて相互に講話をなす。第四週、五週、六週に於ては、銀行、地主、質屋、高利貸等に分つて、村内の金利を調査する。之は實地そんなことに携つてゐる人の所に行つて、聞いて来る。それから次の週間に於ては、生徒自身の家の負債を調査する、例ば小豆は一圓、大豆は十圓、蠶豆は百圓として負債の數丈袋に入れる、と云ふ様な工夫をして、祕密に總額丈を知るやうにする。次の週間には生徒の戸數割の等級などを基礎として、生徒の父兄の負債平均額より、村内全般の負債總額、及平均額を類推算出する。その次の週には村民の貯金を調べ、その貯金が村内

の資金として止まつてゐるか、村外に出でしまつてゐるか等を調査する。こんな風に段々研究を進めて、最後に本村に信用組合が完全に行はるれば、現在の狀況に比して、何んな利益があるか、又本村の信用組合としては、どんな施設が最も適當で且つ急務であるかといふ結論に達する様な研究の豫定を指導案で作るのである。従て指導案作製の巧拙は、直に研究の結果に影響するのであるから、その作製に際しては充分注意して貰ひ度い。若しその學校で作るとすれば、前に述べたその村の農事技術員たる實業科の教師と、校長以下其他の教師と、充分に研究し、打ち合はせて作らねばなるまいが、或は郡の教育會あたりで相當の専門家を集め



て、數種の指導案を作り、町村に於ては、實狀に應じて幾分の訂正を加ふると云ふことにするのも宜からう。只此の場合に云つて置きたいことは、完全なる指導案作製が困難であるのを理由として、かう云ふ研究科のやり方は實行難であると云ふ様な、輕卒なる論斷をして貰ひ度くないことである。指導案も決して始より立派なものが出來やう筈はないのであるが、その不完全な指導案で指導をなしつゝ、自己の努力と經驗の結果、漸次改善を加へ、數年の後に立派な指導案が出來ると云ふことが、教育上却つて大に意義あることと思ふのである。

ハ、研究の指導 指導案が已に出來上つたなら、同一題目の志望者

を集めて、一團となして指導をする。或はその一團の中で、更に細目を分つて、分業的研究をさせるも一つの方法であらう。是等は其の問題の性質に従つて適當に指導すべきである。而してこの研究は實地に就て調査するのを主とするが、實地に集めた材料を教室に於て適當に或は集計をし、平均數を出し、或は統計表に作る等、それ／＼整理して、一階段毎に研究の結果をまとめさせる即ちなるべく實地調査と教室内に於ける整理と、交互に按排するやうにするのである。尙實地調査の方法の如きは、調査事項により、それ／＼異なるべきものであるが、負債の調査に豆を用ふる例を述べた如く、その事項々々に従つて、充分研究して貰ひたいの



である。この研究の方法も年々改善に改善を加へたならば、そのうちには適當の研究方法が発見されることであらう。

二、研究の結果 以上述べし如く、指導案により調査研究を重ねて一年乃至二年の間に、その事項に關する一通りの研究を終へたとすれば、茲に全部の材料を整理して、生徒に論文を草せしむるのである。農村の青年に卒業論文と云つたら、一寸異様に感ずる人があるかも知れないが、普通教育終了後、六年間補習學校で充分に教育し、その上前記の研究科で適當の指導を施した者に、この位な事は何でもないのである。或は我々のこの意見を聞いて、直に自分の補習學校の上級生に應用し、研究の結果を論文にまとめ

させて見て、その論文の極めて貧弱なるを悟り、從て我々の唱導する研究科のやり方其自身が机上の空論で、到底實行の出来ないものと感ずる人も少くないかも知れない。然し、是等の人々は、左の二つの點に就て熟考して貰はねばならぬ。一つは現在の補習教育が、前に述べた如く、普通教育、實業教育、公民教育の三職能を、十分且つ完全に發揮してゐるか何うかと云ふ點である。隨つて、諸君の實行せられた上級生なるものは、補習教育の上級生として、果して充分なる智能を具へて居るかを省みて戴きたい。極めて不遜な申分ではあるが、かくの如き研究科の施設は、勿論前提として本科の改善を要求するものである。今一つの點と云ふ



のは、本科の改善が相当に行はれたとしても、研究科の論文は迄感心すべきものでないかも知れない。然し之は當初の一二年であつて、前年の経験に基き、指導案も改訂し、實地調査の方法をも改め、漸次改良を加へて行けば、三五年にして必ず相當の効果を擧ぐることに信ずるのである。この點よりすれば指導案なども他所の専門家に初からよいものを作つて貰ふよりも、自分の學校で、研究と経験の結果、漸次改善して作製することが肝要であらう。苟くも農村教育の大問題を擔任する人は、一定の理想目的を立て、不撓不屈之に向つて邁進すべき勇氣と忍耐とを有し、且つ深刻精透なる研究的態度を持して、改善に改善を加ふるの意氣

が無ければならぬ。一回や二回の研究の結果が、完全でないとしても、決して失望するには及ばぬのである。

ホ、擔任の教師 而して研究科は、校長、農業科教師（即ち町村の農事指導者）、主席指導等に於て擔任して貰ひたい。將來は農村指導者とも云ふべき、補習教育専門の先生が、必ず出来ることと思ふが、それ迄は校長及農業科教師に於て、主として當つて貰ひ度いのである。この點よりしても、町村農會に技術員を置いて之れに補習教育の農業科教師を兼ねしむるの急務を感ぜざるを得ないのである。又校長其他の普通科の先生でも、農村教育者としては、その町村に於て實際必要なる諸問題に關して、相當研究する



必要のあるのは、云ふ迄もないことであるから、研究科の擔任は先生自身の爲にも必要なことであると信ずる。

二、研究科の理想目的 研究科施設の方法に就ては前述の通りであるが、特に補習教育の最後の仕上げとして、この研究科の必要を高調する所以のものは、實に左の數點にあつて存するのである。

イ、研究心の養成 この點は最明かな問題である。歐米諸國民に比して、日本人の最短所である研究心を養成するといふことが、今日の日本に必要なことは多言を待たないのである。殊に農村の青年に於ても、研究的態度を以て、日常の生活に對すれば、農業

技術の進歩、農家經濟の改善は固より、更に進んで自己の生活に對し、非常の趣味を感じることに、精神的の慰安を得て、最有意義に農村生活を樂むこととなるのである。農村娛樂問題等も重要であるに相違ないが、研究心の養成は、精神的にも物質的にも、非常の價値ある問題であると思ふ。只命題の平凡、且つ陳腐なるの故を以て、研究心の養成が農村改善に與ふる影響を、左程に感ぜない人があるとすれば、本當に農村の實狀を知らず、農村青年の新しい要求を知らない人々であると斷言するに躊躇しない。

ロ、自治思想の根本的觀念の確立 一寸むつかしい言ひ表し方であるがこの問題は我々が研究科の理想目的として最重きをおく點であ



るから、少しく讀者諸君のお考へを煩したるのである。一體現在の町村公民の思想を考察して見ると、一部の公民は、町村自治といふのは名を公共に藉りて私威を振ひ、私益を行ふ機關であると思つてゐるやうにもあり、又他の一部の公民は、卑屈にも公民として何等の自覺もなく、抱負もなく、却つて町村公共の事は、總て村内二三の有力者に托するを可とし、公民權として最重大なる議員の選舉も有力者の指令に従ふを以て、町村に忠なる所以と解してゐるやうに見える。前者の町村を以て私利を營むの機關と思惟するごとき思想の誤れるは勿論として、後者の有力者に對する絶對服從即良民なりとする思想は、大に考へねばならぬ。殊

に模範村とか、優良村とか稱せらるゝ町村の住民に、この種の思想を有する公民の多きことは、大に注意すべきである。一寸考へれば如何にも純朴なる美質のやうであるが、或は自治の腐敗この間に萌し、或は有力者の勢力推移の關係より昨日の模範村一朝にして不良村と化するが如き、悲むべき結果を來すこと少くないのである。若しも町村民の態度として、斯の如きものが理想的であるとするれば、専制治下に於ける所謂「納税の動物」と何の選む所があらう。公民權を與へて自治制を採用した現在の制度は、決して斯の如き公民を理想としてゐないと確信するのである。それならば、現在の公民悉く我意我見を立て、公事を論じたとすれ



ば、その結果は何うであらう、紛糾に重ぬるに紛糾を以てし、或は收拾する能はざる如き結果となるかも知れない。此の如きも亦決して自治の發達を期する所以でない。この矛盾を解決する爲に我々は公民教育を一要素とする補習教育の必要を絶叫するのである。而してこの研究科の施設の如きもこの點に於て最必要を感ずるのである。一年乃至二年以上一定の事項、而かも最自己の生活に密接なる問題の研究を爲し遂げて、然る後に公民となると云ふことになれば、ある種の問題に就ては、この村に於て、兎に角新しき進んだ研究をした一人である。此事に就ては村のお役に立ち得る人である。議員となつて意見を述べても、この問題ならば

相當に村の公益を擧げ得ると云ふ自覺を興ふることとなる。この自覺こそ眞の公民思想の基礎である。町村の公民、各自己の研究を基礎とした長所に立つて、村治を翼賛するのである。而して一の問題に對する徹底的研究は、他の問題に對しても相當の見識を興ふることは勿論であるから、かう云ふ議員が村治を議し、かう云ふ人々が産業組合、農會其他の公共機關に従事し、かう云ふ公民が或は當事者を助け、或は監督するに至つて、初めて眞の模範村優良村が出来上るのである。當事者の如何によつて、良否直に地を換へるやうなことはなくなるのである。斯の如くにして始めて眞の地方改良は行はれると思ふ、我々の高調する研究科は實



にこの理想、この目的を有するものである。

ハ、町村問題研究所の完成 前に述べた通り、研究科の研究は二年二年では確な結果は得られぬにしても、十年二十年と繼續して行く間には、種々の問題が研究され、その研究方法が年一年と改善される結果、遂には町村會議員も、農會の役員も、産業組合の理事も、補習學校の研究を度外視することが出来ぬ様になり、後には之に教へられて、實際の經營を行ふと云ふことになるであらう。之は決して空想でないと思ふ。此處まで行けば、補習教育は立派に目的を遂げたもので、町村は年一年と發達し、町村民も年一年と進歩向上する。所謂理想郷の建設も左迄悲觀したものではない。

いであらう。

以上數回に涉つて、農村に於ける補習教育に關し、自分の經驗と主張を述べたのであるが、大方の讀者も現在の町村に、補習教育の必要なることには御同感であらうと思ふ。その施設方法の如き、自ら意見を異にせらるゝ人も多からうと思ふが、何うか普通教育、公民教育、及實業教育の三者を完全に包含し、徹底的に教育し得る補習教育の施設が、全國の町村に普及して、丁年以下の青年は、盡くこの補習教育を受くることとなる様にしたいものである。



#### 第四 補習教育の指導及獎勵

農村に於ける補習學校經營に關する私見の主要は上述の通りであるが、益々其の改善を加へ進歩を促すには、單に町村に於ける補習教育の當事者を責むるのみならず、地方官廳及公共團體に於ても、相當の指導獎勵の施設をなすの必要がある。今其の主なる二三に就て意見を述べて見よう。

##### (一) 教師の養成指導

補習教育改善の中心問題は、實に教師の養成指導である。この點に關しては、縣及郡に於て相當の經費を投じて是非左記の事項

を實施して貰ひたいと思ふ。

##### 一、實業科教員の養成及指導

現在各府縣に於て實行してゐる農業科教師の養成方法は、小學教師を農學校に集めて、農業の講習を施すことにあるらしい。之は決して無効でないのみならず、相當の成績を擧げてゐる喜ぶべき施設であるが、この方法によりて養成したる教師は、高等小學及補習學校の二三學年以下の農業科を擔任するに最適當であつて、補習學校の四學年位より以上の農業科を擔任して活氣ある教授をなすは、恐らくその堪ふる所でないであらう。この點は農業科擔任教師の項に於て詳説して置いたから、讀者も多分著者の意見を諒とせらるゝであらうと思ふ。



それで前に述べたる如く、町村農會の技術員に兼ねしむるとして如何なる養成方法を探るべきかと云ふに、余の意見としては、農事試験場に縣の施設として農業教員及農會技術員養成所を附設するのである。期間は約一箇年とし、入所資格は甲種農學校の卒業生と定める。學科は農業實習に重を置くは勿論として、其他に自治要義、教育及教授法、農業法規及農業經濟（農會及産業組合を含む）農家經營法、農家の副業等とし、科外として時々地方改良、青年指導に關する講話を聞かしむることとする。講師は縣官師範學校の教諭、農會、試験場の技師、農學校の教師等の内より適任者を選むのである。而してこの養成所の卒業生を農會の技術

員に採用せしめて、補習學校の教師を兼ねしむることゝしたい。經費さへ許せば補習學校の單獨の教師とすれば尙結構である。この養成所は前に農事試験場に附設すべしと云つたが、或は事情によつては農學校に附設するを可とするかも知れない。併し普通の場合としては、實習に便なることゝ、師範學校及他の農學校との關係上、矢張り試験場に附屬せしむる方がよからうと思ふ。農業科教員の養成は以上の如くとして、現在の農業科教師の指導方法は如何と云ふに、これは時々講習會を開いて、養成所の項で述べた學科を授くるのが最良の方法であらう。其他ある所では高等小學及補習學校の農業科教師が、郡立農學校に月一回づゝ



集まつて、種々の打合せをし、且つ實驗などをして行く所があるが、之などは餘程適切なやり方であると思ふ。

二、公民科及普通科教師の指導養成 公民科教師の養成も、完全を望めば山形縣に於ける自治講習所の如く、長期にわたる専門の養成所を設ける必要があるであらうが、差し當つては講習會の開設の外致方あるまい。普通科教師に就ては、何等の方法を講ずるの必要なきやうに思へるが、科目は普通科でも、補習學校の生徒を取り扱ふには、小學校とは異なる所が多いから、矢張り講習會を開いて自治大意、補習教育の職能、青年の指導等に關する知識と信念とを與ふるの必要があるであらう。

(二) 模範的補習學校の設立

補習教育は今や正に試験時代である、實際的研究によつてのみ解決さるべき問題が無數に存在してゐる。斯の如き問題を解決して町村の補習教育を指導するには、各縣に於て補習教育研究所たるべき模範的補習學校を設置するの必要なることを痛切に感ずるのである。この研究所たる模範的補習學校に於て施設し研究して其の結果を發表し、以て一般の指導に資することになければならぬ。而してこの模範的補習學校の組織は如何にすべきかと云ふに、師範學校及農學校に附設するを最適當と信するのである。附設すると云ふも、市街地に於ける師範學校等に附設して師範學校



の校舎を用ひては、何等の効果を擧ぐることは出来ない。縣廳や裁判所の給仕の夜學となり了つて失敗した實例もあることである。之は何うしても附近の村落の補習學校を其儘、師範學校なり農學校なり農學の事業として經營しなければならぬ。かくて師範學校なり農學校なりの教諭自ら擔任教師となつて、各科目の教材其他の研究に當らなければならぬ。各學科の教授細目なども、大體はこの學校の基礎として、各補習學校に作製せしむることも出来る。殊に公民科の教授細目や研究科の指導案などは、この模範的補習學校に於て作製せしむれば、非常の便宜であらう。大阪の生野村の補習學校は實にこの種の模範的補習學校の嚆矢であるが、其後

二二三の縣に於て計畫されたとき聞いてゐるが、何うか各府縣に於てこの種の設備を完成されたいものである。以上は府縣の施設であるが、郡に於ても郡役所在地若は附近の村落の補習學校を指定して、郡の補習教育試験所となし、郡視學、郡農會技術員等も之に關係して模範的經營を行ふことが出来れば、補助教育の進歩の爲に多大の効果があらう。

(三) 經費の補助

補助教育の經費は、其の效果の大なるに比しては、極めて低廉である。從て全部町村に於て支辨すべきは固よりであるが、現在に於ては、尙縣費及郡費より補助して改善を促すべき事項が少く



ない。而して郡費の補助は如何なる事項を指定するを最適當なりやと云ふに、第一に必要なは農業科専任教師の俸給である。若し町村農會の技術員を兼ね居るとすれば、その技術員の俸給である。農會に補助するも補習學校に補助するも結果は同一なるが相當に補助を與へて之が普及をはかることは、補習教育改善上最急務であると思ふ。次に實習地の設置、或は普通科教師は俸給増額等を指定して補助するのも良策であらう。尙縣費の補助も同様であるが、余の考にては郡の補習教育補助費の幾分を縣費にて補助すると云ふやり方が、最簡單で効果ある方法であると思ふ。折角縣費郡費の補助があつても、其費途目的が異なる爲其の効果がう

農村補習教育之研究 終

すいやうであるが、之を集めて金額を増大し、一の目的の爲に補助することになれば、著しい効果を擧げる事が出来る。又この方法は郡に於ける補助費支出を自ら獎勵することにもなつて、補習教育の爲には喜ぶべき方法である。



大正五年十二月二十七日印刷  
大正六年一月九日發行

農村補習教育之研究與附

並製〔定價十五錢〕

著作者 田澤義鋪

發行者 上野他七郎  
東京市麹町區內幸町一丁目四番地

印刷者 高橋季吉  
東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷所 博文館印刷所  
東京市小石川區久堅町百〇八番地

不許複製

發行所

東京市麹町區內幸町一丁目四番地

中央報德會

電話新橋三五九五番  
振替口座東京九七〇〇番



◎中央報徳會發行書目

愛知縣立 農林學校長 山崎延吉先生著

版四 農村小話

定價十錢 送料二錢

農村指導の爲めに心血を傾注せる著者が、折に觸れ時に感じての感想を輯録せるものなり。收むる所、處世訓あり、修養談あり、其他各種の農村問題あり、殊に農村の婦女、家庭に關するもの最も多きを占む。而して本書は價格低廉なれば、地方改良講演會、青年會、婦人會、處女會を始め、各種會合の配付用としては、最も適當なるべし。

版四 農村と青年

定價五十錢 送料六錢

平易通俗なる言の裡に無限の眞理を藏する本書を讀まざる青年ありや試みに其の標題の一二を掲げん。

■青年者の手 ■俄鬼の正體 ■柱を削りて倒る ■道徳の輸出超過 ■一筋の手拭 ■十錢の反古 ■足もとに氣をつけ ■大根と燕苔との問答 ■芋紳士 ■前祝と後悔 ■夢に意徳翁と語る ■獨逸元氣の中心たる青年團其他八十餘篇

法學博士 井上友一先生著

版八 自治の開發訓練

定價五十錢 送料八錢

■地方開發の必要 ■世界自治の競争 ■自治研究の資料 ■自治制度の沿革 ■各國自治の特徵 (協同主義の自治 ■民主主義の自治 ■實益主義の自治 ■國家主義の自治 ■政治主義の自治) ■自治訓練の方法 ■自治各種の經營 (自治と防衛事業 ■自治と訓育事業 ■自治と救濟事業 ■自治と保健事業 ■自治と交通事業 ■自治と殖産事業 ■自治と財政) ■地方今日の急務

前西ヶ原農事試驗場 師 故齋藤萬吉先生述

刊新 農村の開發

定價五十錢 送料六錢

理論に偏せずして事實の調査を重んじ、常に全國を周遊して親しく農民を指導したる我が農界の大恩人たる齋藤農學士が多年の蘊蓄を傾倒せる大論文を輯録せるもの即ち本書也。論策あり調査あり、事實談あり、追懷あり、以て故人の面影を偲ぶと共に我が農界に裨益する所頗る大なるものあらん。



内務省地方局編

増補  
五版

# 地方改良の要項

定價十五錢  
送料四錢

本書は地方改良の要項を簡單明確に知悉せしめんが爲め地方局に於て編纂せるもの、地方改良の何たるを知らんとする人は是非一讀せざるべからざる名著也。

内務省土木局長 小橋一太先生述

再版

# 地方改良本義

定價一圓  
送料八錢

是れ著者が曩に地方局長として地方自治行政の局に當られし際、内外の事績を調査研究し、其の蘊蓄を傾倒して説述せられたるものにして、地方改良の要義一として備はざるなし。地方自治の事に心を用ふる人士に此良書を推薦す。

井口丑二先生著

再版

# 地方改良の方法

定價四十五錢  
送料六錢

内容一斑

■緒論 ■國體を明にし國民性を涵養する事 ■敬神信教の念を養成する事 ■公共事項周知の方法を設くる事 ■敬老尙善の方法を設くる事 ■産業の進歩改良を圖る事 ■勤儉貯蓄の方法を設くる事 ■兵役尊重の實を擧ぐる事 ■租税の納期内完納を期する事 ■道路修繕の方法を設くる事 ■補習教育を必行する事 ■各種團體を補助指導する事 ■時間を重んじ約束を守るの習慣を養ふ事 ■自治經營の五訓五戒 ■公共心と共同心 ■選奨團體並に個人一覽

四版

# 二宮翁金言集

定價二十錢  
送料四錢

二宮翁大教訓の精髓は收めて此の書中に在り。以て修養の指針となすべく座右の銘となすべきものあらん。



井口丑一先生著

四 家庭叢書 第壹編 婦人の報徳

定價三十錢  
送料四錢

婦人に報徳の心を涵養せんとする目的を以て、極めて簡明適切に報徳の道を祖述せるものにして、今尊徳翁の稱ある金原明善翁は、本書を讀みて感激落涙する事深しと推奨せられたり。

早川貞水口演

三 家庭叢書 第一編 貞烈美談

定價十二錢  
送料四錢

貞烈鬼神を泣かしむべき武士の妻と、苦節十一年遊惰の夫をして翻然悔悟して勤勉力行の人たらしめ藩主より表彰されたる節婦おいしの傳とを收む。

京都府宇治郡長 前田宇治郎先生著

新刊 家庭叢書 第參編 婦人の修養

定價三十錢  
送料四錢

附 吉田松陰の『女誠』。鵜殿長快の『孝行歌』

古今の名婦賢婦、地方の隠れたる貞女節婦の實例を引用して、日本婦人としての修養の方法を極めて明快適切に説けるものなり。敢て世の修養に志ある婦人に此書を推薦す。

醫學士 竹内薫兵先生著

再版 家庭叢書 第四編 實験子供の育て方

定價五十錢  
送料六錢

附 育兒問答

如何にして愛兒を無病健全に有爲なる人物として、育て上ぐべきかを學理と實驗とに基き極めて適切に説述せるものにして、何人も一讀直に之を實行し得べし。井上博士が推奨讃嘆の辭を吝まれざりしもの決して偶然に非ず。



東京府知事 法學博士 井上友一先生述

再版

# 獨逸の實力

定價 八錢  
送料 二錢

内容一斑

何人も何物も恐れざる獨逸國將來恐るべき露國の農民新進優勢なる獨逸の富力  
世界は勇氣と意力に支配さる萬事に抜きなき獨逸國民今こそ舉國一致の佛國  
兵七十歳の老兵、婦人の坑夫、大戦争の出陣者、千八百萬人、捕虜我邦の御大禮を研  
究す財政上の動員を爲せり國の實力、地方の負債十億圓に達す世界ヤ等國たる素養  
青年體力の現狀は如何露國皇室中心の美風等

家庭學校副校長 小鹽高恒先生著

新刊

# 北米遊記

定價 五十錢  
送料 六錢

内容一斑

エルマイラの秋色、フリーピルの別天地、仙骨在茲偉人の墓、シエフキール市の  
市風改善俱樂部、ニュープリテンの運動、見聞の實業學校、米國最大の少  
年俱樂部、新聞小僧俱樂部、女子植民館、觀光雜筆、ホストンめぐり、アロクライ  
大事業、プロックトン、共進會、風は寒し、紐育の春、ホストンめぐり、アロクライ  
の夏期公園、エルマイラの感化監獄、シヤトルの救濟事業、ホストン市立警備學  
校、日本人の米國觀其他

湯原元一先生著

再版

# 戰時の獨逸國民

定價 八十錢  
送料 八錢

獨逸に關する諸著中、最も精確なる新材料を透徹せる識見とに依りて、主として戰線後方の敵  
狀を詳述したるものにして、所謂獨逸觀の本質と其の活躍の狀は歴々として之を掌上に指すが  
如し。苟くも時局の將來を知らんとするものは本書を一讀せざるべからず。

土方伯爵序 静岡少年軍團長 深尾韶先生著

新刊

# 少年軍團教範

定價 八十錢  
送料 八錢

内容一斑

少年軍團とは如何なるものか、日本に於ける少年軍團組織の方法、少年軍團教練  
の内容、基本教練(第一期教練)、自衛教練(第二、三期教練)、救護教練(第四、五期  
教練)、特殊教練(第六期教練)、少年軍團の擴充、少年軍團の實用的價值、少年軍  
團編成の要



早川貞水君口演

版六 新民講壇 第一編 忠孝節義

上卷『忠孝の巻』 主家再興美談  
下卷『節義の巻』 貞女さよの傳  
義商天野屋利兵衛

上下二卷  
定價各二十錢  
送料各四錢

至孝自然生  
信義の手紙  
幼時の二宮尊徳

内務書記官 田子一民先生著

版三 郡に在りし頃

定價五十錢  
送料六錢

陸軍中將 田中義一閣下著

社會的國民教育

定價十一錢  
送料四錢



Z/5R12

2



終

